資 料 1

閲 覧 用

阿見町立学校再編計画（案）

パブリックコメント

この阿見町立学校再編計画（案）はパブリックコメント用です。

・内容は現在策定中のものであり，確定したものではありません。従いまして，今後の検討により変更することがあります。
・校正作業については，最終的に実施いたします。

平成 27 年 2 月 4 日

阿見町教育委員会

目　次

１．再編計画の策定にあたって ______ 1
２．小中学校の現状 ______ 2
３．阿見町教育振興基本計画 ______ 7
４．児童・生徒数の将来推計 ______ 8
５．町立学校再編に関する住民意向 ______ 10
⑴ 保護者を対象としたアンケート調査の結果 ______ 12
⑵ 児童・生徒を対象としたアンケート調査の結果 ______ 16
⑶ 学校再編に関する意見交換会の結果 ______ 21
⑷ 「阿見町立学校再編に関する基本方針」説明会での意見 ______ 22
⑸ 「阿見町立学校再編計画案」説明会での意見 ______ 23
⑹ 住民意向のまとめ ______ 25
６．学校の適正規模 ______ 26
⑴ 学校規模による課題 ______ 26
⑵ 学校規模等の基準 ______ 29
７．再編の基本方針 ______ 30
⑴ 学校規模の基本的な考え方 ______ 30
⑵ 望ましい学校規模 ______ 30
⑶ 適正配置の基本的な考え方 ______ 31
８．再編計画 ______ 32
⑴ 再編実施方針 ______ 32
⑵ 通学について ______ 35
⑶ 学校生活について ______ 35
９．資料 ______ 37
⑴ 阿見町立学校再編検討委員会 ______ 37
⑵ 策定経過 ______ 40

1. 再編計画の策定にあたって

阿見町では，住民すべての手で阿見町の教育を支えていくとの理念を掲げ，家庭，地域，学校，行政が手を携えて，まちぐるみ，地域ぐるみで育てる教育を推進しております。

こうした中，わが国では少子高齢化の進展に伴い人口が減少し，経済分野における活力の低下や社会保障の負担増と合わせて，子どもや子育て環境への影響が懸念されています。当町においても，全体の児童・生徒数は減少傾向にありますが，人口増加地区では児童・生徒数が急増しています。こうした学校規模の変化は，児童・生徒の教育条件，教育環境，学校運営等にさまざまな影響を及ぼしています。

さらに，グローバル化の進展，ＩＣＴ等の活用による教育など，学校を取り巻く社会環境も大きく変化しており，児童・生徒にとって望ましい教育環境の整備や学習施設の充実を図っていく必要があります。

また，平成 27 年１月には，今後増えるとみられる小規模校のデメリットを解消することを目的とした「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引案」を文部科学省が示すなど，少子化に対応した活力ある学校づくりに向けた国の取り組みも本格化しようとしています。

こうした状況を踏まえ，阿見町では，地域・保護者・学校関係者の代表や有識者等で構成する「阿見町立学校再編検討委員会」を組織し，町の実情に即した町立学校の適正な学校規模や適正配置など，学校再編に関する「阿見町立学校再編計画」を策定することとしました。

本計画に基づく学校再編の推進にあたっては，豊かな自然環境に育まれ培われてきた町の風土・歴史・伝統を踏まえるとともに，保護者，地域住民，学校，教育委員会が協議して合意形成を図りながら，次代を担う子どもたちの「生きる力」を育てる教育環境の整備を目指します。

2. 小中学校の現状

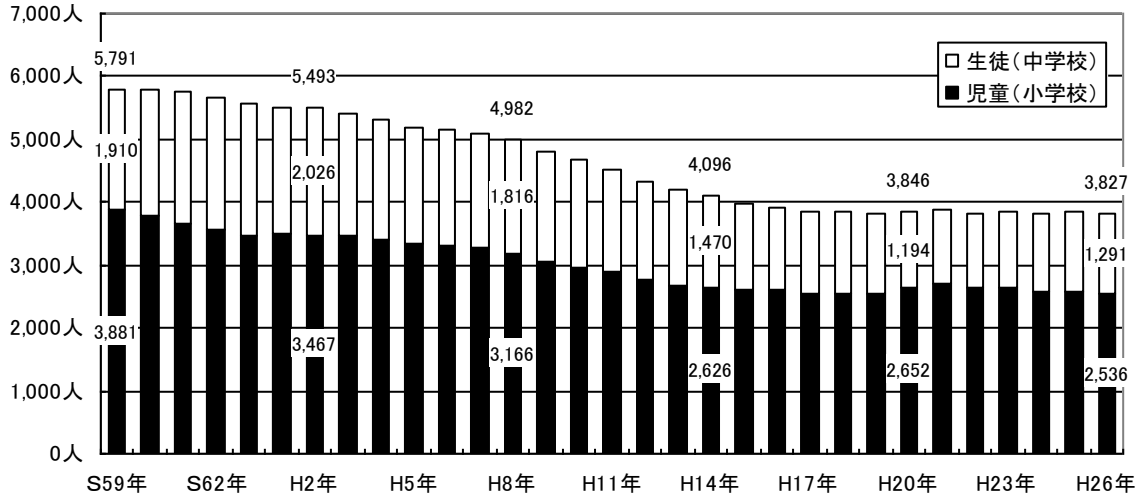
現在，阿見町の町立学校は小学校 8 校，中学校 3 校があり，平成 26 年 5 月 1 日現在，児童数は 2,536 人，生徒数は 1,291 人となっています。

ピーク時である昭和 59 年の児童・生徒数と比較すると，児童数は 3,881 人から 1,345 人の減少（△35%），生徒数は 1,910 人から 619 人の減少（△32%）となり，合計すると 1,964 人減少（△34%）しています。

小学校は，本郷小が児童数 701 人・学級数 27 で最も規模が大きく，阿見小と阿見第一小も児童数は 500 人を超えています。一方，実穀小，吉原小，君原小の 3 校は児童数が 100 人を下回り，一学年あたり 1 学級となっています。

中学校は，竹来中が生徒数 482 人・学級数 16 で最も規模が大きく，次いで阿見中（生徒数 468 人・学級数 16），朝日中（生徒数 341 人・学級数 12）の順となっています。

図 1　児童・生徒数の推移



※学校基本調査（各年 5 月 1 日現在）

表 1　学校別児童・生徒数，学級数　　（単位：人，学級）

		阿見小	実穀小	吉原小	本郷小	君原小	舟島小	阿見第一小	阿見第二小	計
小学校	児童数	516	89	66	701	78	365	507	214	2,536
	学級数	19	7	7	27	7	13	21	9	110

		阿見中	朝日中	竹来中	計
中学校	生徒数	468	341	482	1,291
	学級数	16	12	16	44

※学校基本調査（平成 26 年 5 月 1 日現在），　学級数は通常学級数＋特別支援学級

表 2　学校別児童・生徒数，学級数一覧（平成 26 年 5 月 1 日現在）

◇小学校　（各学年の前列は通常学級　後列は特別支援学級児童数）

学校名		学年別児童数・学級数												計		合 計
		1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生				
阿見小学校	男	37		51	1	40	2	37	2	38		44		247	5	252
	女	33		47	1	42		59		34		46	2	261	3	264
	計	70		98	2	82	2	96	2	72		90	2	508	8	516
	学級数	2		3		3		3		2		3		16	3	19
実穀小学校	男	8		6		6		6		5		10		41		41
	女	5		7		5		4		14	1	11	1	46	2	48
	計	13		13		11		10		19	1	21	1	87	2	89
	学級数	1		1		1		1		1		1		6	1	7
吉原小学校	男	3		6		7		5		6	1	7		34	1	35
	女	2		4		6		5		3		11		31		31
	計	5		10		13		10		9	1	18		65	1	66
	学級数	1		1		1		1		1		1		6	1	7
本郷小学校	男	73		61	1	53	2	47	2	48	6	62	4	344	15	359
	女	69		53	3	57	2	60	1	45	1	50	1	334	8	342
	計	142		114	4	110	4	107	3	93	7	112	5	678	23	701
	学級数	5		4		4		3		3		4		23	4	27
君原小学校	男	4		6		1		7	1	7		8	2	33	3	36
	女	9		8		9	1	7		5		3		41	1	42
	計	13		14		10	1	14	1	12		11	2	74	4	78
	学級数	1		1		1		1		1		1		6	1	7
舟島小学校	男	24		30		37		38	1	31		34		194	1	195
	女	26		29	1	20	2	30	1	30		31		166	4	170
	計	50		59	1	57	2	68	2	61		65		360	5	365
	学級数	2		2		2		2		2		2		12	1	13
阿見第一小学校	男	28		40	2	43	2	41	5	34	2	45	1	231	12	243
	女	32		39	3	42	1	42		53	5	47		255	9	264
	計	60		79	5	85	3	83	5	87	7	92	1	486	21	507
	学級数	2		3		3		3		3		3		17	4	21
阿見第二小学校	男	23		18	1	20		16	2	16		15	3	108	6	114
	女	14		16	1	16		12		17	2	21	1	96	4	100
	計	37		34	2	36		28	2	33	2	36	4	204	10	214
	学級数	2		1		1		1		1		1		7	2	9
計	男	200		218	5	207	6	197	13	185	9	225	10	1,232	43	1,275
	女	190		203	9	197	6	219	2	201	9	220	5	1,230	31	1,261
	計	390		421	14	404	12	416	15	386	18	445	15	2,462	74	2,536
	学級数	16		16		16		15		14		16		93	17	110
				1～3年児童数		1,241				4～6年児童数		1,295				

◇中学校　（各学年の前列は通常学級　後列は特別支援学級生徒数）

学校名		学年別生徒数・学級数						計		合 計
		1年生		2年生		3年生				
阿見中学校	男	80	3	71	1	87	4	238	8	246
	女	72		67	1	82		221	1	222
	計	152	3	138	2	169	4	459	9	468
	学級数	5		4		5		14	2	16
朝日中学校	男	55	1	54		58	2	167	3	170
	女	58		54		59		171		171
	計	113	1	108		117	2	338	3	341
	学級数	4		3		3		10	2	12
竹来中学校	男	87	3	83	1	70	2	240	6	246
	女	81	2	77	1	71	4	229	7	236
	計	168	5	160	2	141	6	469	13	482
	学級数	5		4		4		13	3	16
計	男	222	7	208	2	215	8	645	17	662
	女	211	2	198	2	212	4	621	8	629
	計	433	9	406	4	427	12	1,266	25	1291
	学級数	14		11		12		37	7	44

小　中　計			合 計
男	1,877	60	1,937
女	1,851	39	1,890
計	3,728	99	3,827
学級数	130	24	154

表 3　学校別児童・学級数，就学前児童数（平成 26 年 5 月 1 日現在）

◇小学校

学校名		学年別児童・学級数（0歳～5歳：平成26年4月1日現在）											
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
阿見小学校	男	43	34	35	31	45	44	37	52	42	39	38	44
	女	29	36	42	39	36	39	33	48	42	59	34	48
	計	72	70	77	70	81	83	70	100	84	98	72	92
	学級数	3	2	3	2	3	3	2	3	3	3	2	3
実穀小学校	男	10	14	5	13	3	10	8	6	6	6	5	10
	女	3	10	11	10	10	10	5	7	5	4	15	12
	計	13	24	16	23	13	20	13	13	11	10	20	22
	学級数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
吉原小学校	男	6	3	6	3	3	4	3	6	7	5	7	7
	女	4		2	5	4	5	2	4	6	5	3	11
	計	10	3	8	8	7	9	5	10	13	10	10	18
	学級数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
本郷小学校	男	72	74	73	71	100	74	73	62	55	49	54	66
	女	70	78	76	81	82	95	69	56	59	61	46	51
	計	142	152	149	152	182	169	142	118	114	110	100	117
	学級数	5	5	5	5	6	5	5	4	4	3	3	4
君原小学校	男	3	2	5	6	5	6	4	6	1	8	7	10
	女	3	5	5	3	13	6	9	8	10	7	5	3
	計	6	7	10	9	18	12	13	14	11	15	12	13
	学級数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
舟島小学校	男	12	15	6	16	18	20	24	30	37	39	31	34
	女	13	18	8	29	14	16	26	30	22	31	30	31
	計	25	33	14	45	32	36	50	60	59	70	61	65
	学級数	1	1	1	2	1	2	2	2	2	2	2	2
阿見第一小学校	男	31	36	41	31	43	33	28	42	45	46	36	46
	女	33	32	35	35	36	39	32	42	43	42	58	47
	計	64	68	76	66	79	72	60	84	88	88	94	93
	学級数	2	2	3	2	3	3	2	3	3	3	3	3
阿見第二小学校	男	15	12	17	18	18	16	23	19	20	18	16	18
	女	11	17	10	14	17	19	14	17	16	12	19	22
	計	26	29	27	32	35	35	37	36	36	30	35	40
	学級数	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1
計	男	192	190	188	189	235	207	200	223	213	210	194	235
	女	166	196	189	216	212	229	190	212	203	221	210	225
	計	358	386	377	405	447	436	390	435	416	431	404	460
	学級数	15	14	16	15	17	17	16	16	16	15	14	16

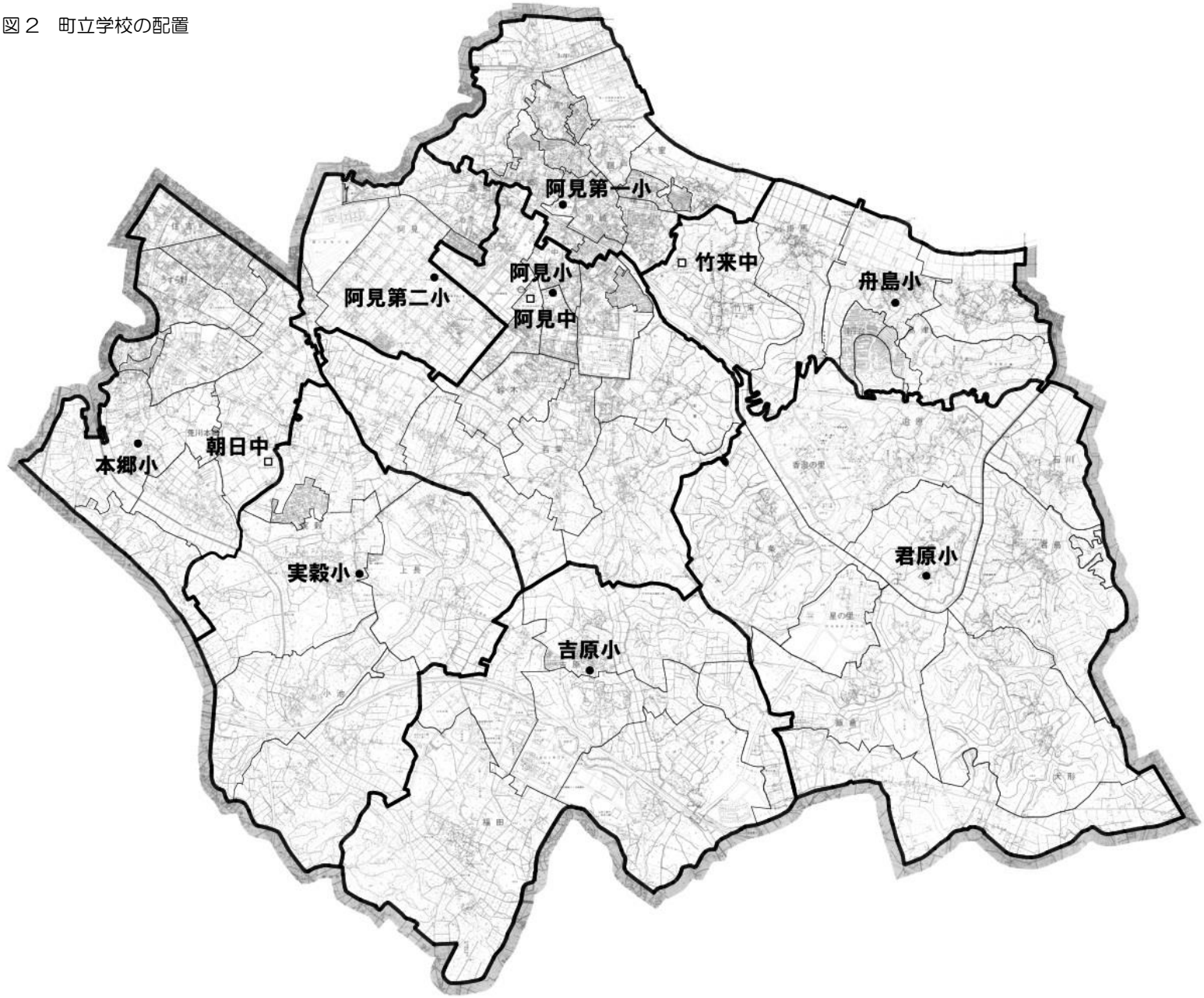
◇中学校

学校名		学年別児童・学級数（0歳～5歳：平成26年4月1日現在）											
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
阿 見中学校	男	64	49	58	52	66	64	63	77	69	62	61	69
	女	44	53	54	58	57	63	49	69	64	76	56	81
	計	108	102	112	110	123	127	112	146	133	138	117	150
	学級数	4	3	4	4	4	4	4	5	4	4	4	5
朝 日中学校	男	82	88	78	84	103	84	81	68	61	55	59	76
	女	73	88	87	91	92	105	74	63	64	65	61	63
	計	155	176	165	175	195	189	155	131	125	120	120	139
	学級数	5	5	5	5	6	6	5	4	4	4	4	4
竹 来中学校	男	46	53	52	53	66	59	56	78	83	93	74	90
	女	49	55	48	67	63	61	67	80	75	80	93	81
	計	95	108	100	120	129	120	123	158	158	173	167	171
	学級数	3	4	3	4	4	4	4	5	5	5	5	5
計	男	192	190	188	189	235	207	200	223	213	210	194	235
	女	166	196	189	216	212	229	190	212	203	221	210	225
	計	358	386	377	405	447	436	390	435	416	431	404	460
	学級数	12	12	12	13	14	14	13	14	13	13	13	14

表４　町立学校の概要（平成 26 年５月１日現在）

		小学校８校								中学校３校		
		阿見 小学校	実穀 小学校	吉原 小学校	本郷 小学校	君原 小学校	舟島 小学校	阿見第一 小学校	阿見第二 小学校	阿見 中学校	朝日 中学校	竹来 中学校
開校		明治 43 年	明治 34 年	明治 12 年	明治 35 年	明治 10 年	明治 13 年	昭和 51 年	昭和 59 年	昭和 22 年	昭和 55 年	昭和 61 年
所在地		中央二丁目 1 番 5 号	大字実穀 1,285 番地	大字吉原 614 番地	大字荒川本郷 1400 番地	大字塙 145 番地	大字島津 3928 番地	岡崎三丁目 19 番地	大字阿見 4988 番地	中央一丁目 2 番 1 号	大字荒川本郷 1855 番地 1	大字竹来 400 番地 1
通学区域		中郷西 北 宿 西方 中央東 中央西 中央南 中央北 鈴木 三区上 三区下 富士団地	実穀 寺子 上小池 下小池 上長 筑見	上吉原 中吉原 下吉原 新山 福田 大砂	住吉 二区北 二区南 一区 上本郷 下本郷 本郷 シンワ 中根	君島 大形 石川 塙 追原 上条 飯倉 飯倉二区	上島津 下島津 南島津 掛馬 竹来 南平台一丁目 南平台二丁目 南平台三丁目	立ノ越 青宿 新町 廻戸 大室 曙東 曙南 霞台 岡崎 中郷東 白鷺団地 レイクサイドタウン	阿見台 西郷 一区南 一区北 上郷	阿見小校区 吉原小校区 阿見第二小校区	本郷小校区 実穀小校区	阿見第一小校区 舟島小校区 君原小校区
施設規模	敷地面積	33,272 ㎡	15,933 ㎡	11,387 ㎡	13,341 ㎡	13,870 ㎡	29,218 ㎡	30,978 ㎡	28,805 ㎡	45,810 ㎡	36,927 ㎡	40,416 ㎡
	校舎面積	4,874 ㎡	3,132 ㎡	2,205 ㎡	3,529 ㎡	2,236 ㎡	4,300 ㎡	5,229 ㎡	3,916 ㎡	4,512 ㎡	4,589 ㎡	7,612 ㎡
	屋内運動場床面積	1,300 ㎡	709 ㎡	709 ㎡	782 ㎡	707 ㎡	708 ㎡	1,043 ㎡	1,019 ㎡	2,136 ㎡	1,333 ㎡	1,449 ㎡
	普通教室数	26 室	13 室	7 室	21 室	7 室	13 室	24 室	14 室	19 室	14 室	20 室
主な施設整備事業（年度）		S43~45 校舎 1~3 期 S50~52 特別教室棟 H 元~2 校舎防音改造 H22 耐震補強	S51~52 校舎 S58 特別教室棟	S46 校舎 S56 特別教室棟	S47 校舎 1 期 S49~50 校舎 2 期 S56 校舎増築 H14 防水改修 H25 プレハブ校舎増築	S53 校舎 H25 耐震補強	S46 校舎 S54 特別教室棟 H10 校舎改修 H23 体育館耐震補強	S51~52 校舎 1~3 期 H6 外装改修 H25 耐震補強	S57~58 校舎	S40~42 校舎 1~3 期 S62~63 校舎防音改造 H22 耐震補強	S54~55 校舎 H5 普通棟外装改修 H6 特別棟外装改修 H24 耐震補強	S59~60 校舎 H9 校舎増築
平成二六年	児童・生徒数	516 人	89 人	66 人	701 人	78 人	365 人	507 人	214 人	468 人	341 人	482 人
	通常学級数	16 学級	6 学級	6 学級	23 学級	6 学級	12 学級	17 学級	7 学級	14 学級	10 学級	13 学級
	特別支援学級数	3 学級	1 学級	1 学級	4 学級	1 学級	1 学級	4 学級	2 学級	2 学級	2 学級	3 学級

図２　町立学校の配置



3. 阿見町教育振興基本計画

阿見町では，学校基本法第 17 条第２項に基づき，本町における教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な計画として，「阿見町教育振興基本計画」（平成 25～34 年度）を策定しています。

この計画では，“学びあい　支えあい　共に輝くひとづくり”を基本理念に掲げるとともに，基本方向として５つの施策の柱を設定しています。学校再編については，施策の柱「４ 安心・快適で質の高い教育環境の創造」の中で小・中学校の適正配置の検討を重点事項として，児童・生徒が集団の中で切磋琢磨しながら成長できる環境の整備を目指すとしています。

図３　阿見町教育振興基本計画の体系

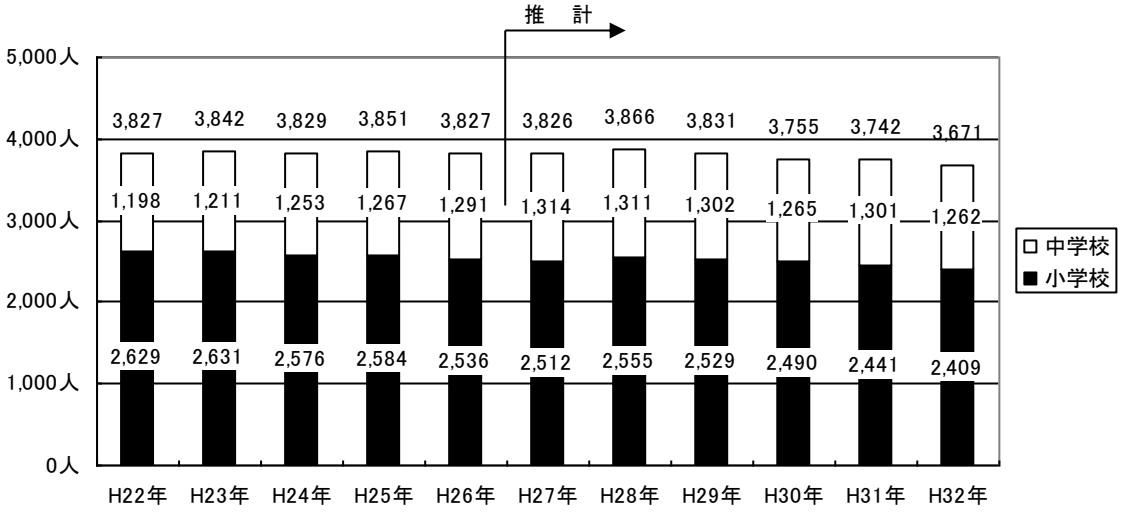
基本方向（施策の柱）	基本方針
1 未来を拓き生きる力を育てる教育の推進	1 阿見町の教育理念の普及･啓発 2 幼児教育の推進 3 確かな学力の定着を目指した教育の推進 4 時代に対応した教育の推進 5 学力を支える教師力の向上 6 自立と社会参加を目指す特別支援教育の推進
2 豊かな心と健やかな体の育成	1 豊かな心を育み命の尊さを伝える教育の充実 2 健やかな体の育成 3 勤労観･職業観を育てる教育の推進 4 生徒指導の充実
3 社会全体での教育力の向上	1 開かれた学校づくりの推進 2 家庭の教育力の醸成･向上 3 地域の教育力の醸成･向上 4 誰もが平等に社会参画できる教育の推進
4 安心・快適で質の高い教育環境の創造	1 安全･安心な教育環境の整備･強化 2 質の高い教育環境の整備充実 3 時代の進展に対応した教育環境の整備 〈具体的施策〉 小･中学校の教育環境と適正配置の検討
5 生涯にわたって学べる環境づくり	1 生涯学習環境の充実と学習成果を生かした社会参加の促進 2 多様な学習機会の充実 3 活力ある生涯スポーツの振興 4 文化芸術活動の推進，伝統文化の継承

4. 児童・生徒数の将来推計

平成 26 年 4 月 1 日現在の住民基本台帳における 0～5 歳児，平成 26 年 5 月 1 日現在の児童・生徒が翌年にそのままの人数で年齢・学年が一つ上がる（小中学校への就学も含む）と仮定した場合，平成 32 年の児童数は平成 26 年の 2,536 人から 127 人減の 2,409 人に，生徒数は平成 26 年の 1,291 人から 80 人減の 1,262 人になることが予想されます。

小学校別でみると，本郷小は今後も児童数が増加する一方，他の学校は減少やほぼ横ばいで推移する結果となっています。

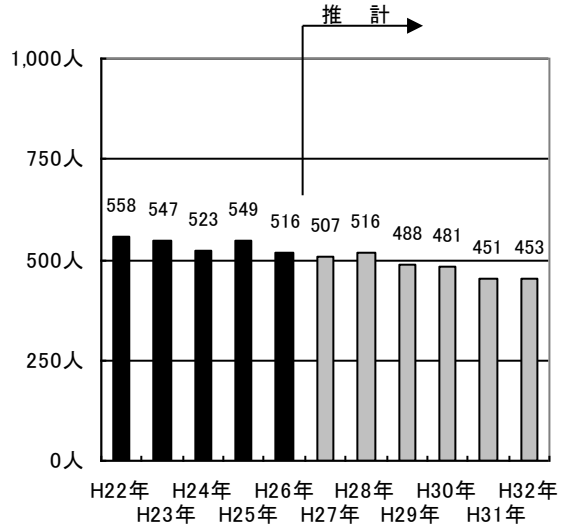
図 4　児童・生徒数の推計



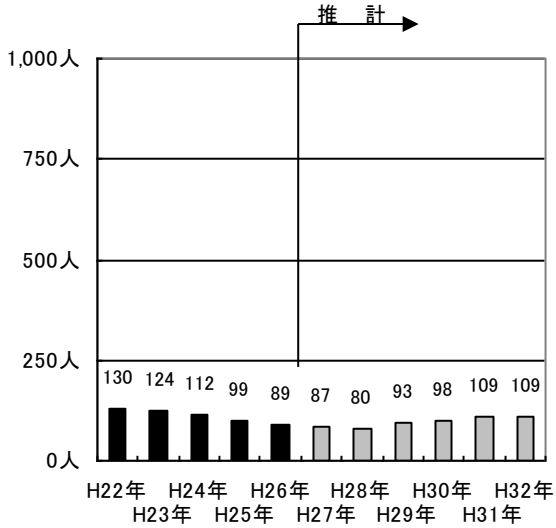
※H22～26 年は学校基本調査（各年 5 月 1 日現在）の実績値

図 5　学校別児童数の推計

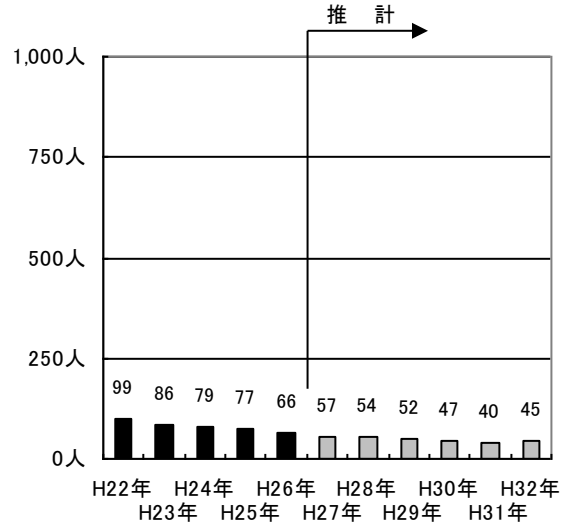
① 阿見小学校



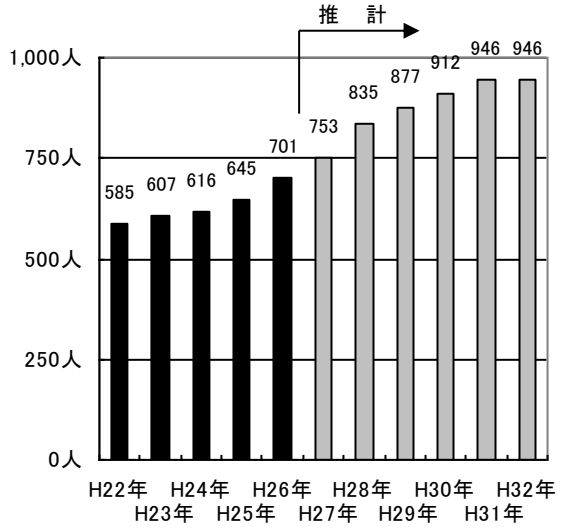
② 実穀小学校



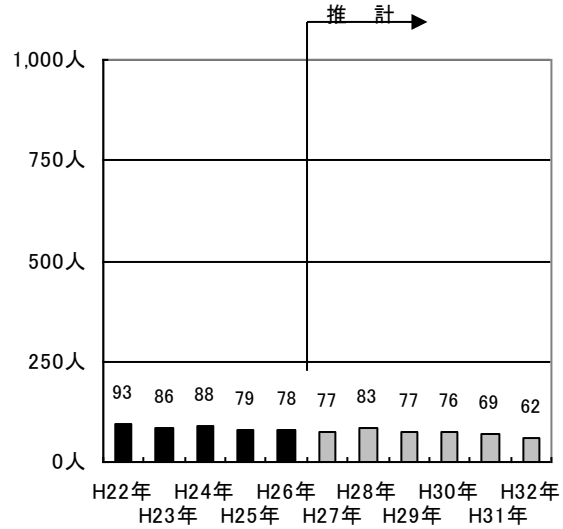
③ 吉原小学校



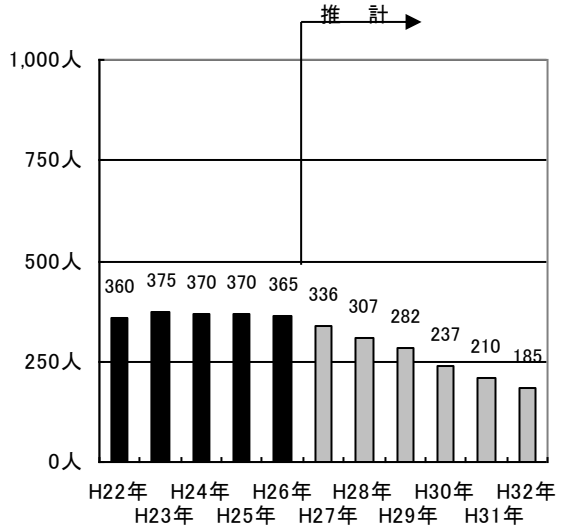
④ 本郷小学校



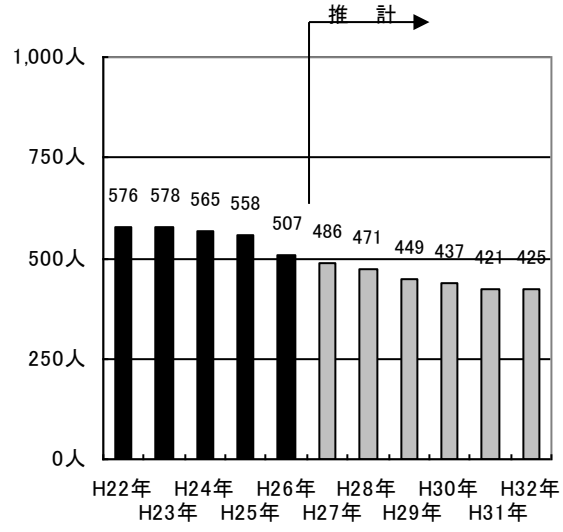
⑤ 君原小学校



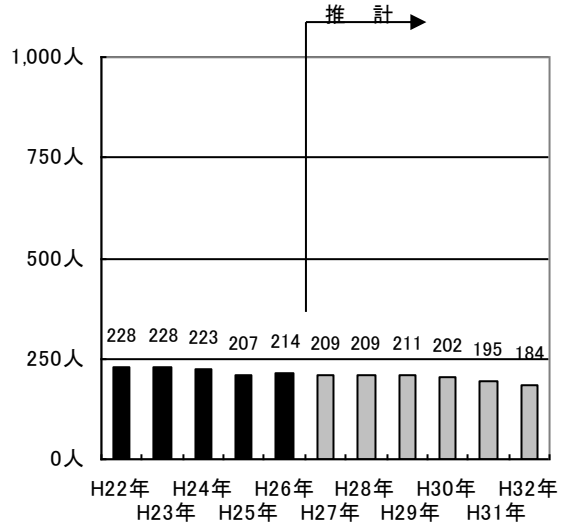
⑥ 舟島小学校



⑦ 阿見第一小学校



⑧ 阿見第二小学校



5. 町立学校再編に関する住民意向

学校再編に対する住民意向を把握するために，就学前児童と小学生の保護者，小学 6 年生及び中学 1 年生を対象としたアンケート調査を実施しました。

また，地域や保護者を対象に，平成 25 年 10 月に学校再編に関する意見交換会を開催するとともに，平成 26 年 7 月に「阿見町立学校再編に関する基本方針」，平成 26 年 11～12 月に「阿見町立学校再編計画案」の説明会をそれぞれ開催しました。

表 5　保護者を対象としたアンケート調査の実施概要

調査対象			町内の幼稚園，保育所・保育園に通園，または小学校に就学している児童の保護者全員
調査方法			幼稚園，保育所・保育園，小学校を通じて調査票を配布・回収
実施時期			平成 25 年 7 月
調査票配布数			3,811　(100.0%)
回収票数			3,131　(82.2%)
	有効票数		3,129　(82.1%)
	無効票数		2　－
		白票	2　－

表 6　児童・生徒を対象としたアンケート調査の実施概要

調査対象	町内の小学 6 年生，中学 1 年生		
調査方法	各小中学校「朝の会」の時間に担任の教員が調査を実施		
実施時期	平成 26 年 2 月		
対象者	小学 6 年生	中学 1 年生	合計
調査票配布数	465 (100.0%)	406 (100.0%)	871 (100.0%)
回収票数	438　(94.2%)	381　(93.8%)	819　(94.0%)
有効票数	438　(94.2%)	381　(93.8%)	819　(94.0%)

表 7　学校再編に関する意見交換会の開催概要

小学校区	日　時	会　場	参加者数
阿見小	平成 25 年 10 月 1 日(火)　19 時～	阿見中央公民館	9 人
実穀小	平成 25 年 10 月 2 日(水)　19 時～	実穀小学校	25 人
吉原小	平成 25 年 10 月 3 日(木)　19 時～	吉原小学校	41 人
本郷小	平成 25 年 10 月 4 日(金)　19 時～	本郷ふれあいセンター	47 人
君原小	平成 25 年 10 月 5 日(土)　14 時～	君原公民館	25 人
舟島小	平成 25 年 10 月 5 日(土)　19 時～	舟島ふれあいセンター	6 人
阿見第一小	平成 25 年 10 月 6 日(日)　14 時～	かすみ公民館	3 人
阿見第二小	平成 25 年 10 月 6 日(日)　19 時～	阿見中央公民館	11 人
計			167 人

表 8　「阿見町立学校再編に関する基本方針」説明会の開催概要

小学校区	日　時	会　場	参加者数
実穀小	平成 26 年 7 月 17 日(木)　19 時～	実穀小学校	15 人
吉原小	平成 26 年 7 月 12 日(土)　19 時～	吉原小学校	21 人
君原小	平成 26 年 7 月 18 日(金)　19 時～	君原公民館	10 人
阿見第二小	平成 26 年 7 月 4 日(金)　13 時～	阿見第二小学校	34 人
全小学校	平成 26 年 7 月 19 日(土)　19 時～	阿見中央公民館	16 人
計			96 人

表 9　「阿見町立学校再編計画案」説明会の開催概要

小学校区	日　時	会　場	参加者数
阿見小	平成 26 年 11 月 11 日(火)　19 時～	阿見中央公民館	10 人
実穀小	平成 26 年 11 月 12 日(水)　19 時～	実穀小学校	18 人
吉原小	平成 26 年 11 月 13 日(木)　19 時～	吉原小学校	22 人
本郷小	平成 26 年 11 月 14 日(金)　19 時～	本郷ふれあいセンター	59 人
君原小	平成 26 年 11 月 18 日(火)　19 時～	君原公民館	24 人
舟島小	平成 26 年 11 月 19 日(水)　19 時～	舟島ふれあいセンター	7 人
阿見第一小	平成 26 年 11 月 20 日(木)　19 時～	かすみ公民館	2 人
阿見第二小	平成 26 年 11 月 21 日(金)　19 時～	阿見中央公民館	6 人
本郷小	平成 26 年 12 月 20 日(土)　18 時～	本郷ふれあいセンター	91 人
計			239 人

（1） 保護者を対象としたアンケート調査の結果

① 小学校の規模について

一学年あたりの学級数は，「2～3 学級がよい」との意見が全体の 7 割（71.2%）を占めています。その理由としては，「たくさんの友達ができる」（63.3%），「さまざまな個性の友達と触れ合う」（54.5%）が半数以上となっています。

現状，一学年 1 学級となっている実穀小，吉原小，君原小では，「1 学級がよい」との意見が最大で 47.0%（君原小）ありますが，3 校とも「2～3 学級がよい」との意見も多くみられます。

1 学級あたりの児童数は，20～30 人程度が適正だと思う意見が全体の 95.1%を占めています。

図 6　「小学校一学年あたりのクラス数は，どの程度が望ましいと思いますか」

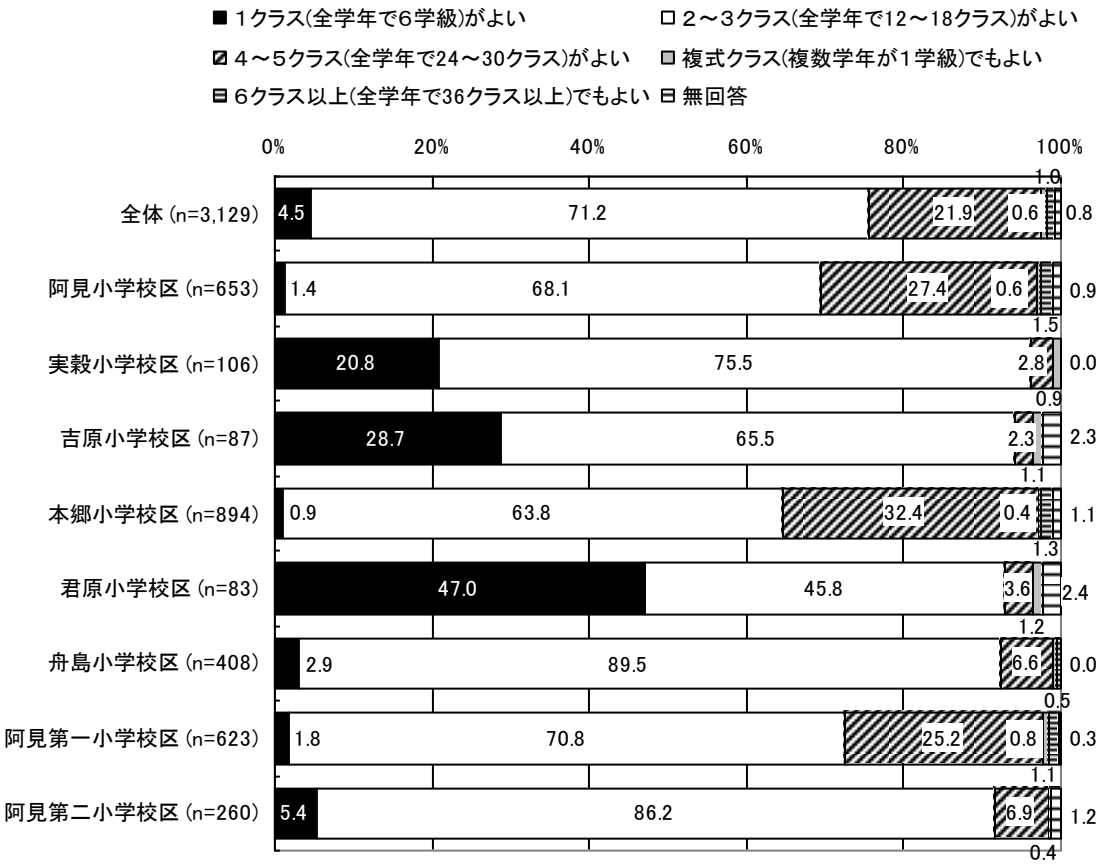
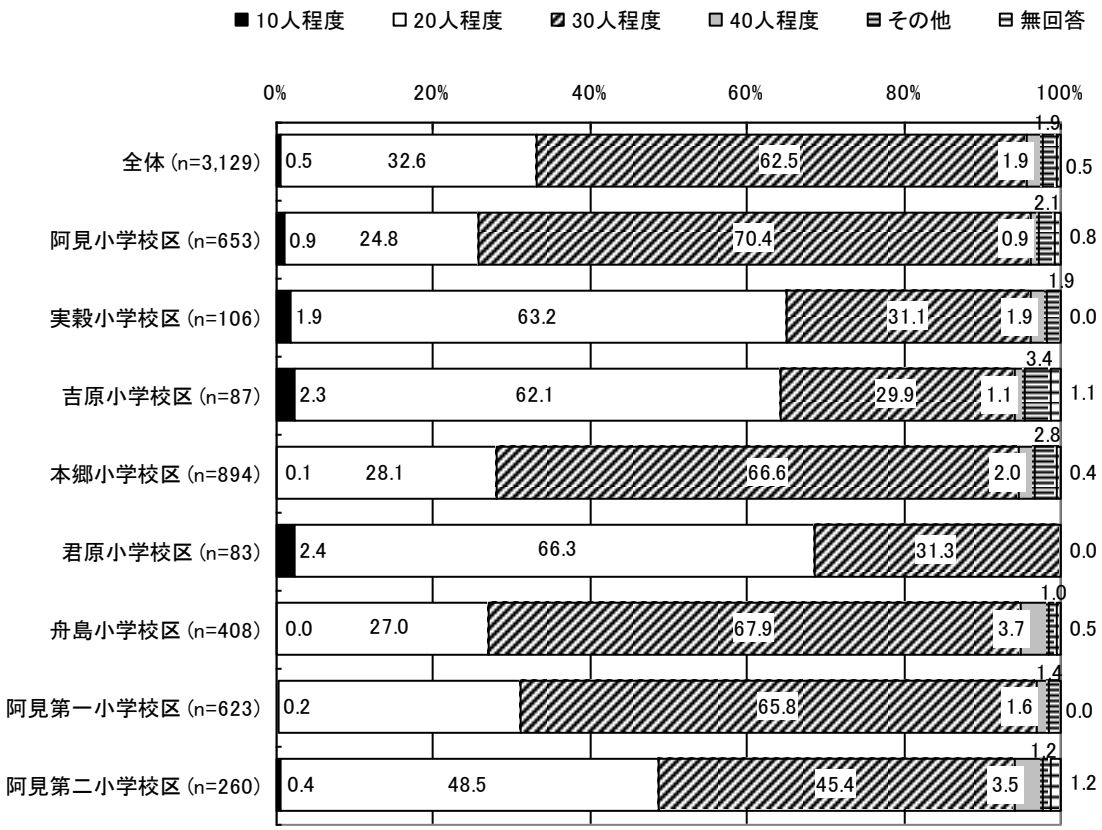


表 10　「そう思われる理由は何ですか」

単位　上段（人） 下段（%） 回答の多い上位3項目は太字・網掛け	一人ひとりに目が行き届く	たくさんの友達ができる	さまざまな個性の友達と触れ合う	ゆとりのある教育が受けられる	協調性を養う機会に恵まれる	学校全体に活気があり行事が盛大	学校行事での活躍の場が豊富	同じクラスで互いに親密になれる	学年を越えた友達ができやすい	その他	無回答
全体（n=3,129）	1,432	1,812	1,624	496	893	912	224	112	159	85	60
	45.8	57.9	51.9	15.9	28.5	29.1	7.2	3.6	5.1	2.7	1.9
1クラス （全学年で6学級） がよい（n=141）	117	9	16	46	6	9	29	59	49	4	5
	83.0	6.4	11.3	32.6	4.3	6.4	20.6	41.8	34.8	2.8	3.5
2～3クラス （全学年で 12~18 クラス） がよい（n=2,227）	**942**	**1,409**	**1,213**	314	693	659	142	46	87	52	27
	42.3	63.3	54.5	14.1	31.1	29.6	6.4	2.1	3.9	2.3	1.2
4～5クラス （全学年で 24~30 クラス） がよい（n=685）	339	368	358	123	176	231	43	6	7	23	20
	49.5	53.7	52.3	18.0	25.7	33.7	6.3	0.9	1.0	3.4	2.9
複式クラス （複数学年が1学級） でもよい（n=19）	5	2	13	1	8	3	1	1	15	2	0
	26.3	10.5	68.4	5.3	42.1	15.8	5.3	5.3	78.9	10.5	0.0
6クラス以上 （全学年で 36 クラス以上） でもよい（n=32）	21	15	14	10	6	6	5	0	1	3	0
	65.6	46.9	43.8	31.3	18.8	18.8	15.6	0.0	3.1	9.4	0.0

図 7　「小学校 1 学級あたりの児童数は，何人くらいが適正だと思いますか」

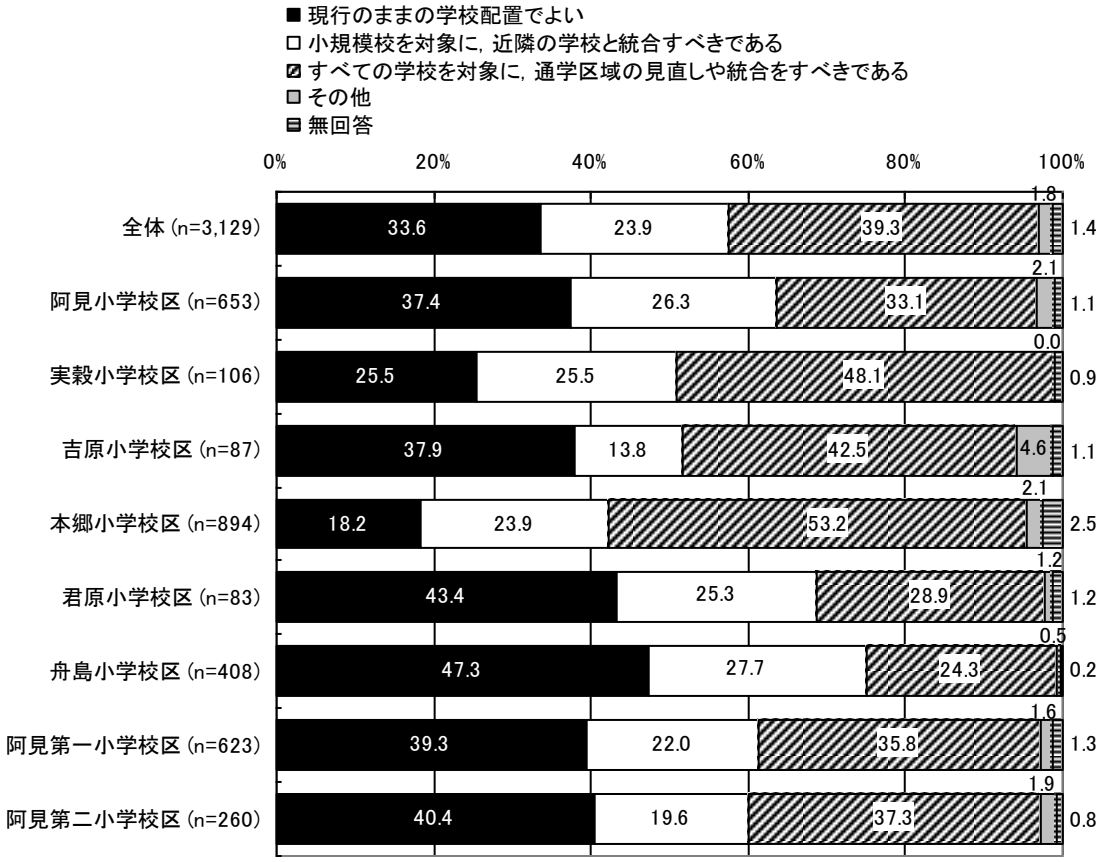


② 小学校の小規模化への対応について

全体では，「すべての学校を対象に，通学区域の見直しや統合をすべきである」が 39.3%，「現行のままの学校配置でよい」が 33.6%，「小規模校を対象に，近隣の学校と統合すべきである」が 23.9%となっており，回答に大きな差はみられません。

君原小と舟島小では，「現行のままの学校配置でよい」との意見が４割を超えていますが，「すべての学校を～」や「小規模校を～」を合わせた“何らかの再編が必要”との意見は，君原小が 54.2%，舟島小が 52.0%となり，半数を超えています。

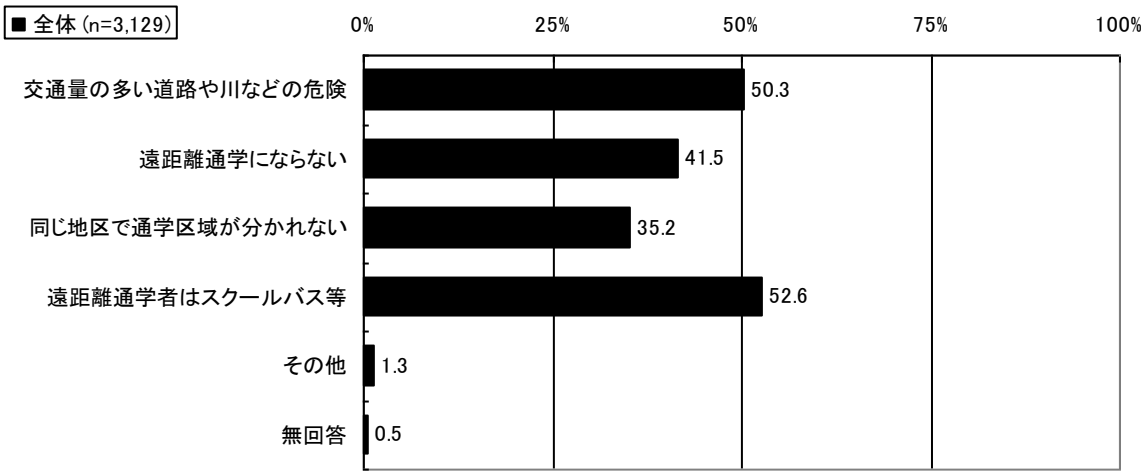
図８　「児童数の減少による学校の小規模化への対応で，あなたの考えに一番近いものはどれですか」



③ 通学区域を変更する場合の配慮について

配慮事項として，「遠距離通学者はスクールバス等」を運行との意見が 52.6%で最も多く，次いで「交通量の多い道路や川などの危険」な個所を避ける（50.3%），「遠距離通学にならない」(41.5%),「同じ地区で通学区域が分かれない」(35.2%）といった回答が続いています。

図９　「小中学校の通学区域を変更する場合に，どのようなことに配慮すべきだと思いますか」



④ 自由意見（学校再編に関する主な意見）

- 新たに小学校を整備してほしい。（159 件）
- 小規模校は統合してもよいのではないか。（85 件）
- 再編により遠距離通学となる児童への対応（スクールバス等）が必要である。（50 件）
- 1 学級の児童数が多くなりすぎるのは問題である。教員の人数を増やしてほしい。（49 件）
- 小規模校や大規模校の再編だけでなく，町全体で再編を検討すべき。（43 件）
- 現状のままでよいと思う。（43 件）
- 通う学校を選べるとよいと思う。（32 件）

（2） 児童・生徒を対象としたアンケート調査の結果

① 一学年あたりの学級数について

小学 6 年生の全体では，「ちょうどよいと思う」が 8 割（79.2%）を占めていますが，一学年 1 学級となっている実穀小，吉原小，阿見第二小では，「もっと多ければよいと思う」との意見が 3 割以上みられます。中学 1 年生の回答をみても，学級数の少ない小学校を卒業した生徒は「もっと多ければよかったと思う」との意見が多くなっています。

「もっと多ければよい（よかった）と思う」という意見の理由をみると，「クラス替えでたくさんの人と友達になれるから」といった意見は，小学 6 年生では 7 割弱（67.1%），中学 1 年生では 6 割強（63.8%）を占めています。

図 10　「あなたの学年のクラス数について，どう思いますか」　（小学 6 年生）

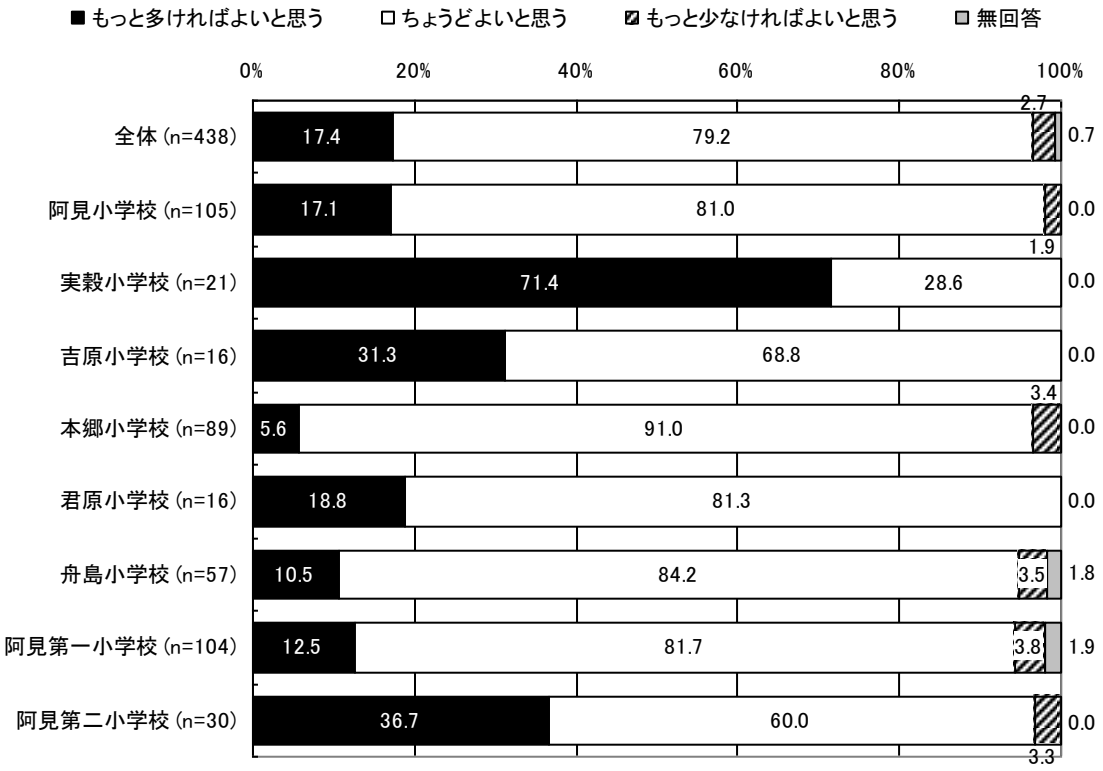


図 11　「卒業した小学校のクラス数について，どう思いますか」（中学 1 年生）

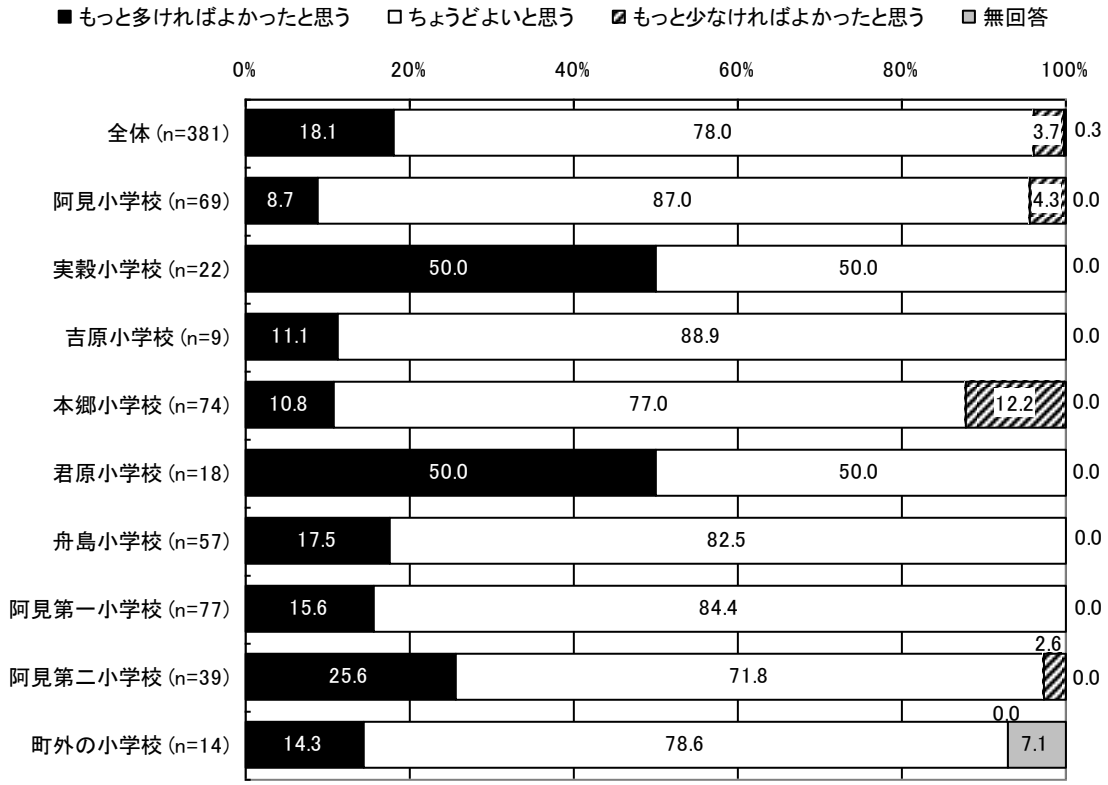


表 11　クラス数に関する意向

	単位　上段（人） 下段（%）	クラス替えでたくさんの人と友達になれるから	みんながまとまりやすく，友達を深く知ることができるから	運動会や学習発表会が盛り上がるから	先生が自分のことをよくわかってくれ，勉強もみてもらえるから	運動場や体育館を広く使えるから	その他	無回答
小学6年生	全体（n=438）	203	243	133	93	77	28	19
		46.3	55.5	30.4	21.2	17.6	6.4	4.3
	もっと多ければよいと思う（n=76）	51	23	17	15	10	10	0
		67.1	30.3	22.4	19.7	13.2	13.2	0.0
	ちょうどよいと思う（n=347）	151	214	114	74	64	18	15
		43.5	61.7	32.9	21.3	18.4	5.2	4.3
	もっと少なければよいと思う（n=12）	1	6	2	4	3	1	1
		8.3	50.0	16.7	33.3	25.0	8.3	8.3
中学1年生	全体（n=381）	184	193	97	75	91	41	9
		48.3	50.7	25.5	19.7	23.9	10.8	2.4
	もっと多ければよかったと思う（n=69）	44	17	16	17	19	8	0
		63.8	24.6	23.2	24.6	27.5	11.6	0.0
	ちょうどよいと思う（n=297）	134	171	78	55	67	32	8
		45.1	57.6	26.3	18.5	22.6	10.8	2.7
	もっと少なければよかったと思う（n=14）	6	5	3	3	5	1	0
		42.9	35.7	21.4	21.4	35.7	7.1	0.0

② １学級あたりの児童数について

小学 6 年生の全体では，「ちょうどよいと思う」が 8 割弱（78.6%）を占めています。実穀小，吉原小，君原小，阿見第二小では，「もっと多ければよいと思う」との意見も高くなっています。

中学 1 年生でも，全体では「ちょうどよいと思う」が 8 割（80.1%）を占めていますが，実穀小と君原小を卒業した生徒からは「もっと多ければよかったと思う」との意見が 4 割を超えています。

図 12　「あなたクラスの人数について，どう思いますか」（小学 6 年生）

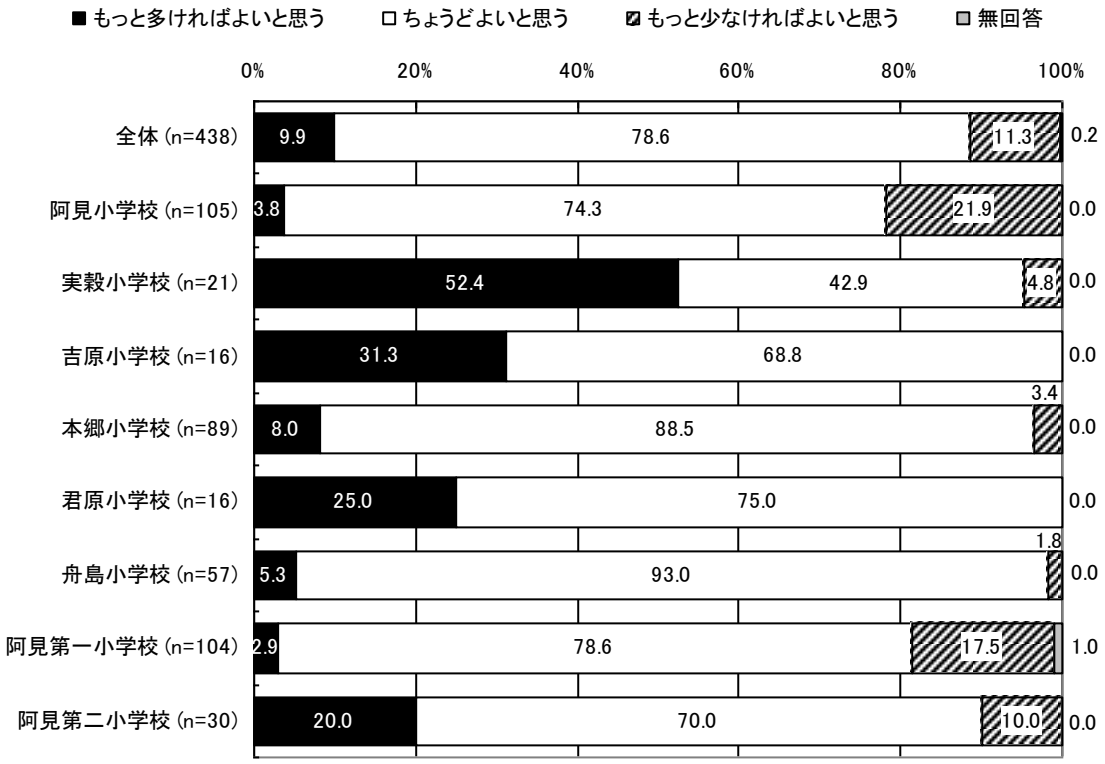
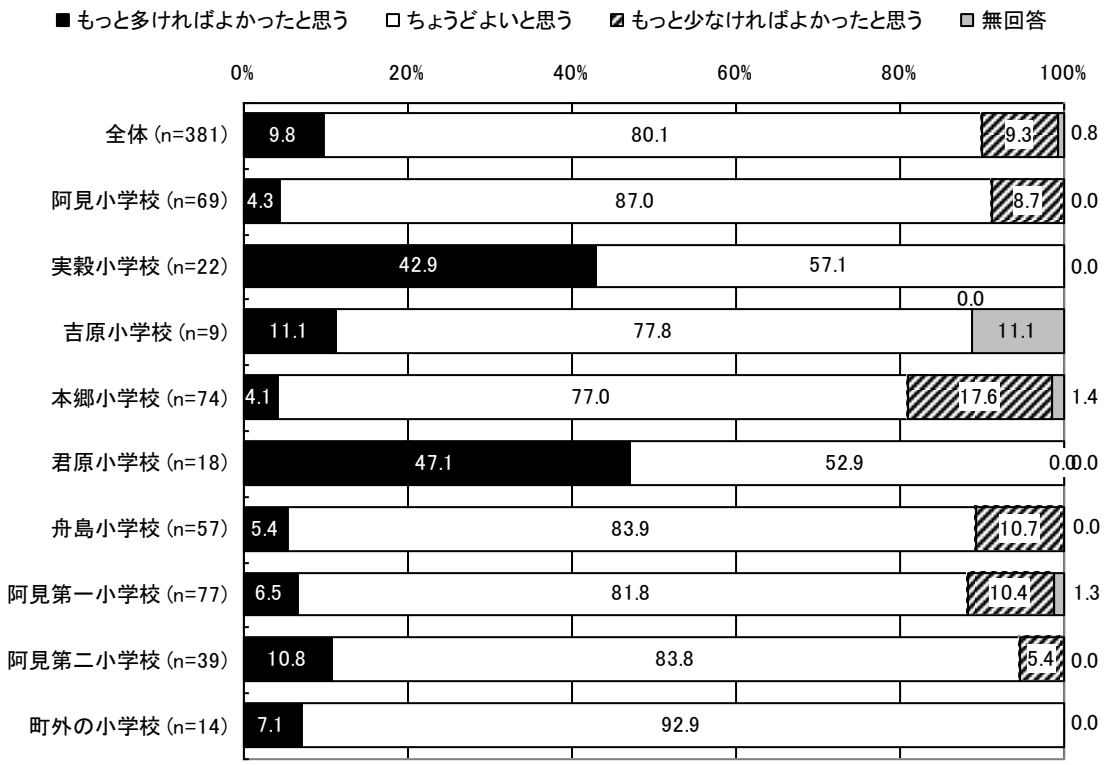


図 13　「卒業した小学校のクラスの人数について，どう思いますか」（中学 1 年生）



③ 通学時間について

小学 6 年生では，どの小学校も「ちょうどよいと思う」が最も多くなっています。その中で実穀小，吉原小，本郷小，君原小は「もっと短い方がよいと思う」との回答が 4 割前後みられます。中学 1 年生の回答をみても，吉原小，本郷小，君原小を卒業した生徒は「もっと短い方がよかったと思う」との意見が 4 割程度となっています。

通学時間ごとの意向をみると，小学 6 年生，中学 1 年生ともに通学時間が 30 分を超えると「もっと短い方がよい（よかった）と思う」との回答が増える傾向がみられます。

図 14　通学時間に関する意向　（小学 6 年生）

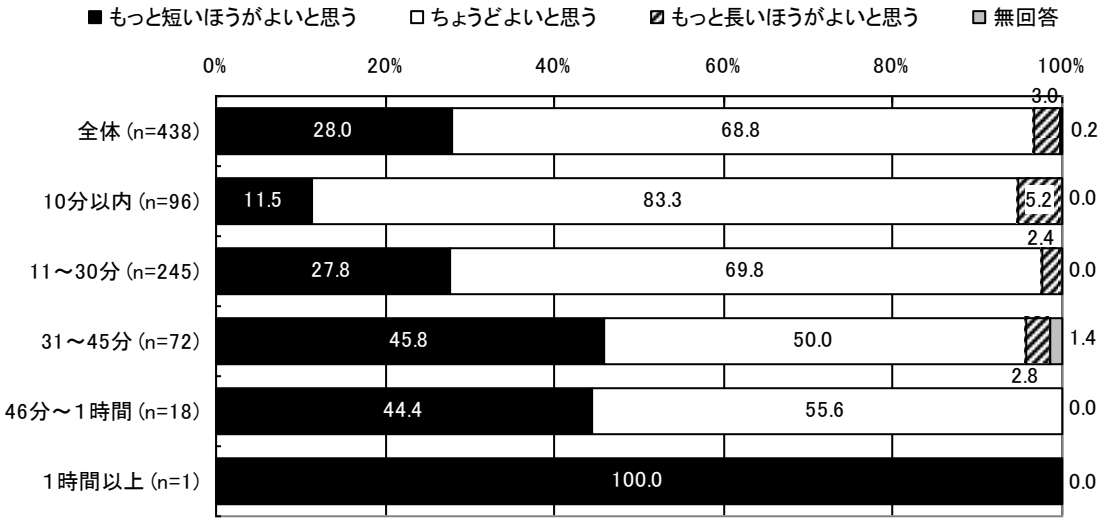
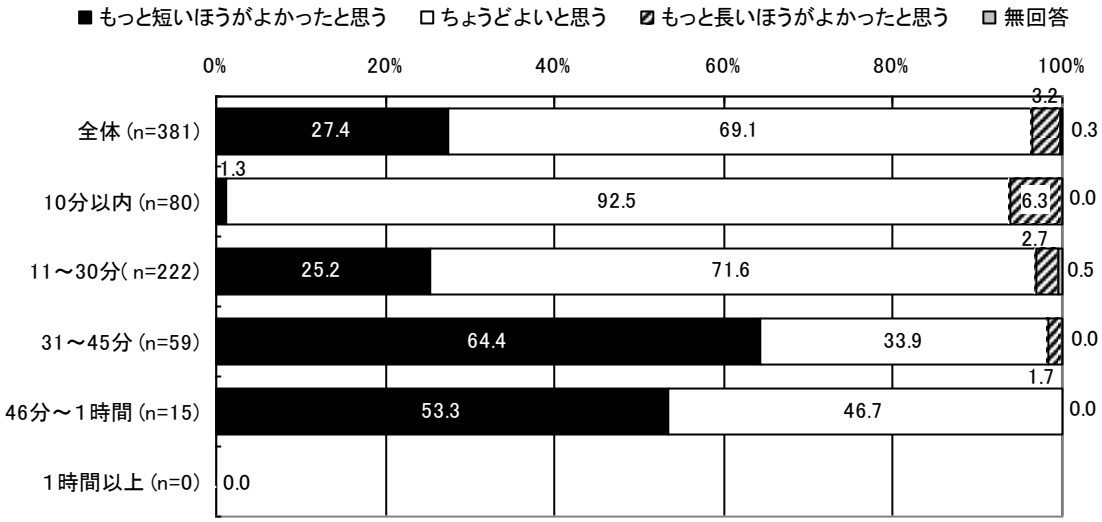


図 15　通学時間に関する意向　（中学 1 年生）



（3）学校再編に関する意見交換会の結果

① 学校再編について

- 小規模校では，メリットよりもデメリットの方が多い。
- 子どものことを考えれば，統合してほしい。
- 小規模校は教室が空いているのだから，大規模校から来てもらうという発想もあるのではないか。
- 複式学級になるのは嫌だ。
- 小規模校を統合する場合は，統合先を複数の学校に分けないでほしい。
- 新しい道路が整備され，通学もしやすくなったので再編しやすいと思う。
- 現時点で学校間の交流があるところは，それを踏まえて再編を検討してほしい。
- 兄弟姉妹で別の学校に通うことにならないよう配慮してほしい。
- 再編パターンは中学校も考慮して検討すべきだ。
- 仮設校舎の整備により運動場も狭くなっている。児童数が多すぎることは教育環境としてよくないのではないか。

② 学校の統合に反対する意見

- 歴史のある学校なので廃校にしてほしくない。
- 再編にあたっては，学区の変更で対応してほしい。
- 学校が無くなる，子どもがいなくなるということは地域が疲弊，衰退化するのと同じである。
- 学校は地域の防災拠点（避難場所）であるとともに，校区単位で住民活動が行われているものもある。学校教育とはまた別な役割もあるので，そうした意見も取り入れた方がよいと思う。

③ 学校再編に対する要望

- 子どもにも意見を聞いた方がよい。
- デメリットについては出来るだけ問題を解消できるように，よく地域の人たちの立場に立って検討しなくてはいけない。
- 町民に広く意見を聞く機会を多く設けた方がよい。
- PTA 活動に配慮した計画にしてほしい。地域としても色々な可能性があるので，どのような再編がいいのか議論しておかないといけない。
- 日本の人口は減少傾向にあるので，新たに住宅地を開発分譲しても入ってくる人がいるのか。
- 学校を新設するよりも，スクールバスの運行に予算を回した方がよい。
- 現在，路線バス代で登校しているが，無料にしてほしい。
- 通学路の安全対策をしてほしい。
- どこの学校に行ってもよいのではないか。

（4）「阿見町立学校再編に関する基本方針」説明会での意見

① 実穀小

- いじめや色々な問題があるので，子ども目線で検討してほしい。子どもたちが安心安全な環境の中で過ごすことのできるようにお願いしたい。
- 子どものことを最優先で考えると，町が考えている「望ましい学校規模」が妥当と思う。
- 意見交換会は具体的な統合の組み合わせ，遠距離通学対策，統合による子どもの受けるメリットなどが決まってから開催すべきではないか。

② 吉原小

- 本郷地区や中央地区への人口集中に対する町の施策に不満がある。
- アウトレット周辺への商業施設の誘致や町営吉原住宅などの活用で人口増を図ることを検討してほしい。

③ 君原小

- これまでは１クラス 20 人以上いたが今は 10 人程度になっていて，さらに減っていくという数字をみると，今のままがよいのか，統合していくべきなのかとても難しい問題だと思う。
- 学校の問題だけではなく，町全体として地域活性化対策，空き家や農地対策としても検討が必要である。
- 定住してもらうための，君原小・君原地区のよいところを発信してはどうか。

④ 阿見第二小

- ２クラス以上あった方がよいと思うが，通学を考えると現状のままがよい。複式学級になるなら，教育面から統合してもよいかなと思う。
- 学校は第一に教育の場であるが，地域防災や地域コミュニティ，スポーツ活動の場でもあるので，今後の在り方を考えてほしい。

⑤ 全体

- 具体的な統合の組み合わせとスケジュールが示されないと意見が出せない。噂話が先行するので，案の段階でもいいので決まったことを説明してほしい。
- 町全体として人口が増加するような施策を検討してほしい。
- 町全体では児童数が微減の状況で新設校は必要がない。学区の変更やスクールバスの運行により，既存校で対応可能ではないか（本郷小地区以外）
- 本郷小の現状をほかの学校の方にも知ってほしい。また，児童の増加によりパンク状態であり学ぶ場所を確保してほしい。

（5）「阿見町立学校再編計画案」説明会での意見

① 阿見小

- 学校再編は時間をかけてじっくり検討するべきである。
- 小学校に通っている子どもの保護者に，学校再編の考え方をきちんと説明をした方がよいと思う。
- 再編後の阿見小の学校規模は，現状よりもかなり大きくなるようだが，放課後児童クラブなどの対応もしっかりやってほしい。

② 実穀小

- 小学校の新設をせず，既存の学校を利用して，将来的に増えると推定される人数に対応するということはできないのか。
- 教育とは，人づくりである。これからの阿見町を創っていくことになるので，ぜひ子どもたちの能力が発揮できる環境をつくってほしい。

③ 吉原小

- 小学校が無くなるというのは，住民にとって非常に重大な問題である。宅地開発を行っている地区もあるが，小学校が無かったら人は集まらないのではないか。
- 学校はコミュニティーや災害時に避難する場所であるとともに，文化の発信地であり，地域にとっては大変重要な役目を持っている。それを廃校にするというのは，住民としても，保護者としても，大変な思いがあると思う。
- 学校再編は重要だが，どういう町や地域にするのか，そういった面も一緒に考えていくべきである。

④ 本郷小

- 小学校が新設されると，住んでいる場所で通学先が分かれることになるが，多感な時期の子どもたちの心のケアについても慎重に対応してほしい。
- 人口が増えることを考えると，予定している新設校の規模で大丈夫なのか。
- 学校再編の情報があまり入ってこない。時間はまだあるのだから，丁寧に分かりやすく情報を提供してほしい。
- 新設校と本郷小の児童数のバランスがあまりにも偏っていないか。新設校では５クラスになる学年があり，国の基準や町の方針に沿っていない。
- 新設校ができることにより，急にクラス数が少なくなってしまう。子どもの心のケアを十分考えてほしい。
- オルティエ本郷に土地を購入する際，学校用地が明示された地区計画に基づき説明を受けた。当然，新小学校が建設される場合には通えるものと思っていた。今回の案だと，オルティエ本郷に土地を購入した者が分かれることになるが，町としてはどのように考えているのか。

⑤ 君原小

- 幼稚園は通う場所を選べるのに，どうして小学校や中学校は選べないのか。誰もが新しい学校に入りたいのではないか。
- 現状の君原小学校の教育体制の中で，存続することに価値を見いだすことができるのではないか。
- やはり 20 人未満のクラスは少ないと思う，子どもの数が 10 人程度だと，保護者は PTA 活動を毎年やらなければならない。
- 地域の人の意見も大切だが，子どもを教育していく親たちが，どのような教育環境を求めているかが一番大事ではないか。

⑥ 舟島小

- 自分の子どもには良い教育を受けさせたいという気持ちは，どの保護者も持っていると思うが，学校が再編されることにより，学習能力などへの影響が心配な部分だと思う。
- 小規模校は，情操教育でも何でも，きめ細かく行うことができるが，学校規模が大きくなるとその辺りがデメリットになるのではないか。
- 説明会への保護者の参加が少ないようだが，現状のままでよい，再編することになっても仕方がないと理解している保護者が多いからだと思う。

⑦ 阿見第一小

- 現状の学校規模を考えれば、年配者が反対しても、きちんとした計画を策定して説明していく必要があると思います。

⑧ 阿見第二小

- スクールバスに乗らずに，長い距離を歩いて通学する子どもも増えることを考えると，地域での見守り体制なども合わせて考えていく必要がある。
- 小規模校を受け入れる側にも，いろいろな意見があるのではないか。

（6） 住民意向のまとめ

アンケート調査や意見交換会等の結果から，学校再編に関する住民意向をまとめると次のようになります。

表 12　住民意向のまとめ

一学年あたりの学級数	• 現状以上の学級数を希望する保護者や児童は，クラス替えへのニーズが高い。 • 一学年 2 学級以上を希望する保護者が多い。
1 学級あたりの児童数	• 1 学級 20 人前後の学校では，児童数が少ないと感じている児童の割合が高い。 • 1 学級 20～30 人を希望する保護者が多い。
学校再編	• 学校再編が必要と考える保護者が多いが，現状のままを希望する意見は全体で 3 割強，小規模校では 4 割程度みられる。 • 小規模校でも子どもへの教育を考え，学校再編を行ってほしいという意見もある。 • 本郷小学校区では，児童数の増加による教育環境への影響を指摘する声が多く，小学校新設への高いニーズがある。 • 学校再編により現状より規模が大きくなる学校では、環境が変化することに不安を感じている保護者が多い。 • 将来、本郷地区新小学校に通学することを想定して宅地を購入している世帯もあり、通学区域の設定にあたっては、地域との合意形成が必要である。
通学区域や通学時間	• 通学時間が 30 分を超えると，通学時間が長いと感じる児童・生徒が 4 割以上となる。 • 遠距離通学への配慮として，スクールバス等の運行は不可欠と考える保護者が多い。

6. 学校の適正規模

（1） 学校規模による課題

① 小規模校と大規模校の一般的なメリット･デメリット

一般的に小規模校では，きめ細やかな指導や施設・設備が余裕を持って利用できるなどのメリットがある反面，多くの友達の多様なものの見方，考え方を学ぶ機会が少なくなり，学校行事や部活動などに制限が生じる可能性があります。

一方，大規模校では，多くの友達や教職員と出会い交流することにより，人間関係を広げることができ，またさまざまな人との関わりの中で切磋琢磨することで，社会性が育ちやすいなどのメリットがある反面，校外学習の活動内容や安全面などで支障が生じる可能性があります。

表 13　小規模校の一般的なメリット・デメリット

項目	小規模校のメリット	小規模校のデメリット
学習面	• 児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく，きめ細かな指導が行いやすい。 • 学校行事や部活動等において，児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。	• 集団の中で，多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会，切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 • 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 • 児童・生徒数，教職員数が少ないため，グループ学習や習熟度別学習，小学校の専科教員による指導など，多様な学習・指導形態をとりにくい。 • 部活動等の設置が限定され，選択の幅が狭まりやすい。
生活面	• 児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 • 異学年間の縦の交流が生まれやすい。 • 児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく，きめ細かな指導が行いやすい。	• クラス替えが困難なことなどから，人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 • 集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 • 組織的な体制が組みにくく，指導方法等に制約が生じやすい。
学校運営面 財政面	• 全教職員間の意思疎通が図りやすく，相互の連携が密になりやすい。 • 学校が一体となって活動しやすい。 • 施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。	• 教職員数が少ないため，経験，教科，特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 • 学年別や教科別の教職員同士で，学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 • 一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 • 子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。
その他	• 保護者や地域社会との連携が図りやすい。	• PTA 活動等の保護者一人あたりの負担が大きくなりやすい。

※国「中央教育審議会初等中等教育分科会の小・中学校の設置・運営の在り方等に関する作業部会資料」から抜粋

表 14　大規模校の一般的なメリット・デメリット

項目	大規模校のメリット	大規模校のデメリット
学習面	• 集団の中で，多様な考え方に触れ，認め合い，協力し合い，切磋琢磨することを通じて，一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。 • 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。 • 児童・生徒数，教員数がある程度多いため，グループ学習や習熟度別学習，小学校の専科教員による指導など，多様な学習・指導形態をとりやすい。 • さまざまな種類の部活動等の設置が可能となり，選択の幅が広がりやすい。	• 全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。 • 学校行事や部活動等において，児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい。
生活面	• クラス替えがしやすいことなどから，豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。 • 切磋琢磨すること等を通じて，社会性や協調性，たくましさ等を育みやすい。 • 学校全体での組織的な指導体制を組みやすい。	• 学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。 • 全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。
学校運営面 財政面	• 教員数がある程度多いため，経験，教科，特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いやすい。 • 学年別や教科別の教職員同士で，学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いやすい。 • 校務分掌を組織的に行いやすい。 • 子ども一人あたりにかかる経費が小さくなりやすい。	• 教職員相互の連絡調整が図りづらい。 • 特別教室や体育館等の施設・設備の利用の面から，学校活動に一定の制約が生じる場合がある。
その他	• PTA 活動等において，役割分担により，保護者の負担を分散しやすい。	• 保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい。

※「国の中央教育審議会初等中等教育分科会の小・中学校の設置・運営の在り方等に関する作業部会資料」から抜粋

② 阿見町の小規模校と大規模校の状況

町内で最も学校規模が小さい吉原小学校と，最も規模が大きい本郷小学校の学校運営状況について聞き取りをしました。

吉原小学校では，小規模校ならではの取り組みがみられる一方で，いじめ等が起きた場合の対応等でクラス替えができない環境が課題となる可能性も考えられます。

本郷小学校では，児童数の増加により特別教室の普通教室への転用や運動場が手狭になるなどの課題が生じています。

表 15　吉原小学校と本郷小学校の状況

吉原小学校 （6 学級）	• 一人ひとりに目がとどき，個に応じた指導がしやすい。 • 学校行事で一人ひとりが主役になれる機会が多い。 • 複数の学年による縦割り班活動を行い，なるべく多くの人と触れ合う機会を設けている。 • 現状では問題はないが，いじめが起きた場合などにクラス替え等による対応ができない。 • 教職員一人ひとりの役割が多くなるが，学校規模が小さいため，特に問題にはなっていない。
本郷小学校 （20 学級）	• 登校班が大人数で編成できる。 • 教職員数が多いことから，多様な意見が出やすい。 • 児童数の増加により，家庭科室，図書室，音楽室などの特別教室を普通教室に変えていく必要がある。 • 運動場が手狭になり，運動会等で保護者席が十分に確保できない。 • 養護教員が一人のため，子どもたち一人ひとりに十分な対応ができない。

表 16　〔参考〕学級数による学校規模の分類

	小規模校	標準規模校	大規模校
小学校	11 学級以下	12～24 学級	25 学級以上
中学校	8 学級以下	9～18 学級	19 学級以上

（2） 学校規模等の基準

① 学校規模

◇学校教育法施行規則第 41 条

- 小学校の学級数は 12 学級以上 18 学級以下を標準とする。
  （同規則第 79 条により，中学校についてもこの規定を準用）

◇義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令第 4 条

適正な学校規模の条件として，学級数は概ね 12 学級から 18 学級までであること。（統合する場合は 24 学級まで）

- 小学校では各学年 2～3 学級
- 中学校においては各学年 4～6 学級

◇公立小・中学校の適正規模について（指針）（県教育委員会 H20 年 4 月）

- 小学校は，クラス替えが可能である各学年 2 学級以上となる 12 学級以上が望ましい。
- 中学校は，クラス替えが可能ですべての教科の担任が配置できる 9 学級以上が望ましい。（国語・社会・数学・理科・英語に複数の教員の配置が可能）

② 学級編制

◇「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」（義務教育標準法）第 3 条

- 1 学級の児童生徒数の標準を 40 人として各学年の学級数が決まり，学級数に応じて教職員の総数が決定する。
  ※茨城県教育委員会の特例
  平成 26 年度から小学校 1～6 年生すべての学年で，35 人の学級編成となりました。
- 複式学級（数学年の児童生徒で 1 学級を編成）の編制基準
  ※小学校では 2 つの学年で 16 人以下の場合
  （第一学年の児童を含む学級は 8 人以下）
  ※中学校では 2 つの学年で 8 人以下の場合

③ 通学区域

◇　学校教育法施行令第 5 条第 2 項

「市町村の教育委員会は，当該市町村の設置する小学校または中学校が 2 校以上ある場合においては，就学予定者の就学すべき小学校または中学校を指定しなければならない」と規定。

◇　義務教育諸学校等の建設費の国庫負担等に関する法律施行令第 4 条第 2 項

通学距離を，小学校にあっては概ね 4ｋｍ以内，中学校にあっては概ね 6ｋｍ以内と規定。

7. 再編の基本方針

（1） 学校規模の基本的な考え方

学校教育には，児童・生徒がさまざまな人間関係を体験することにより，豊かな人間性や社会性，思いやりのある心を育てていく役割が強く期待されていることもあり，小中学校の規模は，教育活動や児童・生徒の学校生活を左右する重要な要件の一つであると考えられます。

このことから，子どもたちにとってより良い教育環境の充実を目指して，学校施設・学校経営・地域との関係の観点，また，国や県の基準などを参考に，阿見町の望ましい学校規模の基本的な考え方を定めます。

（2） 望ましい学校規模

① 小学校

児童にとって，クラス替えを通じてさまざまな人間関係が生まれ，そこから多様な価値観・学習意欲・よい意味でのライバル意識が芽生えるための環境整備が必要です。

また，学校教育活動では，総合的な学習の時間等で課題別活動に幅を持たせること，体育的・文化的学校行事において学級ごとに取り組めるなど，集団としての教育も考慮した教育活動を実践していくことが重要です。

さらに教員にとっても，一つの学年に複数の学級があることは教員相互の研修が可能となるほか，適正な校務分掌を図ることが可能となります。

これらを踏まえ，小学校における望ましい学校規模を次のとおりとします。

・一学年 2 学級以上（概ね一学年 2～4 学級）※学校全体では 12～24 学級

② 中学校

中学校は教科担任制であることから，各教科に専門の教員を確保することが必要となります。同じ教科を担当する教員を複数配置することにより，多様な学習・指導形態がとりやすく，指導方法の向上を図ることができます。

これらを踏まえ，中学校における望ましい学校規模を次のとおりとします。

・一学年 3 学級以上（概ね一学年 3～6 学級）※学校全体では 9～18 学級

（3） 適正配置の基本的な考え方

児童・生徒数の減少が予想される中，安定的に望ましい学校規模が確保できない小学校については，統合を視野に入れた段階的な対応が必要となっています。

一方，児童数が増加している本郷小学校区においては，通学区域の検討や新小学校建設へ向けた取り組みを進めています。

学校の適正配置にあたっては，これまで学校が地域で果たしてきた役割や地域の事情を十分に配慮した上で，保護者，地域住民，学校関係者などに対し，学級数等の将来推計，学校の小規模化による問題点等について説明するとともに，十分に協議するなど，適正配置の必要性に関する共通理解と協力を得て進めることが必要です。

これらを踏まえ，学校の適正配置の基本的な考え方を次のとおりとします。

① 小学校

・本郷地区に新設する小学校を含めて，町全域の配置を検討する。
・望ましい学校規模に満たない学校は，遠距離通学者への配慮をして，隣接校との統合を検討する。

② 中学校

・望ましい学校規模であるため，現状のままとする。

8. 再編計画

（1） 再編実施方針

① 児童数の将来推計，通学等を考慮した具体的な適正配置

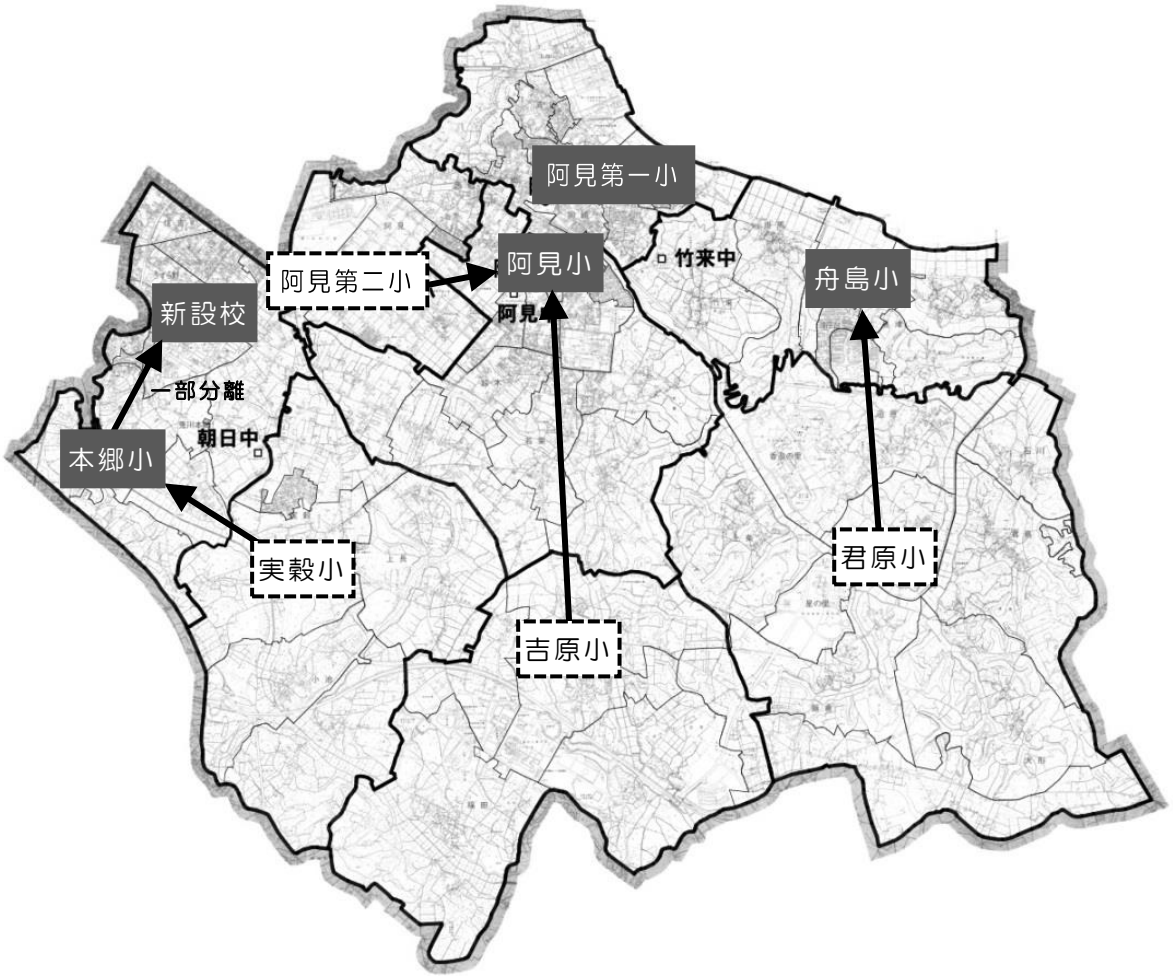
望ましい学校規模，適正配置の基本的な考え方を踏まえ，町立小学校の適正配置を次のように設定します。

・進学する中学校を基本に小規模校を隣接校に統合する。

・実穀小，吉原小，君原小，阿見第二小を隣接校に統合し，本郷小の一部を新設校に分離し 5 校に再編する。

・小中一貫教育については，「阿見町教育推進委員会」を充実させ，今後，他の市町村の実施状況等を参考にして，阿見町の児童・生徒の実態に合った教育について継続して調査・研究を行う。

図 16　児童数の将来推計，通学等を考慮した具体的な適正配置



② 児童数の将来推計から想定する再編実施時期

一学年１学級となる学年が発生する実穀小，吉原小，君原小及び阿見第二小は，子どもたちにとってより良い教育環境の充実を目指して，保護者，地域住民，学校関係者等と統合に向けた協議を行い，合意形成が図られ次第統合に取り組みます。

なお，教育委員会は再編実施時期に係る児童数の将来推計を毎年実施し，関係者に情報提供を行います。

図 17　再編実施までのイメージ

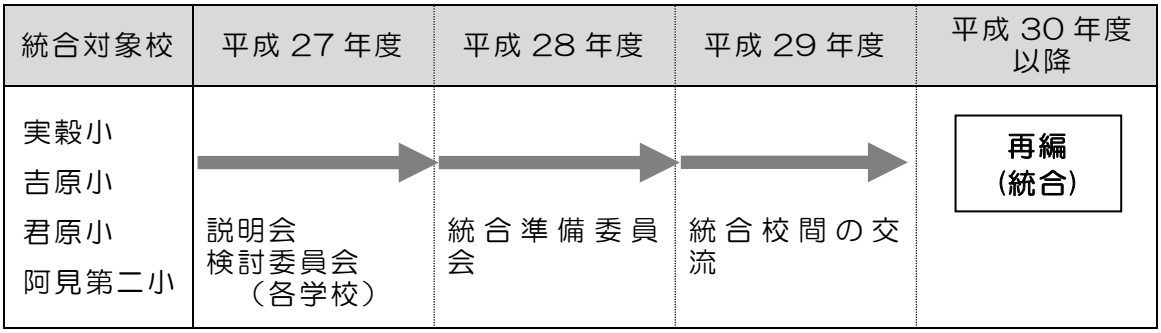


表 17　平成 30 年度の学校規模（現状のまま）　　（単位：上段：人，下段：学級）

平成 30 年度	１年生	２年生	３年生	４年生	５年生	６年生	合計
平成 26 年度	０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	
阿見小	77	70	81	83	70	100	481
	3	2	3	3	2	3	16
実穀小	16	23	13	20	13	13	98
	1	1	1	1	1	1	6
吉原小	8	8	7	9	5	10	47
	1	(1)		(1)		1	2(2)
本郷小	149	152	182	169	142	118	912
	5	5	6	5	4	4	29
君原小	10	9	18	12	13	14	76
	1	1	1	1	1	1	6
舟島小	14	45	32	36	50	60	237
	1	2	1	2	2	2	10
阿見第一小	76	66	79	72	60	84	437
	3	2	2	2	2	3	14
阿見第二小	27	32	35	35	37	36	202
	1	1	4	1	1	1	6
計	377	405	447	436	390	435	2,490
	16	14(1)	15	15(1)	13	16	89(2)

表 18　再編後の学校規模（平成 30 年度の推計）　　（単位：上段：人，下段：学級）

再編案		中学校区	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	
阿見小	吉原小，阿見第二小と統合	阿見中	112	110	123	127	112	146	730
			4	4	4	4	4	5	25
本郷小	実穀小と統合，一部分離	朝日中	45	55	75	69	35	41	320
			2	2	2	2	1	2	11
新設校	本郷小から分離		120	120	120	120	120	90	690
			4	4	4	4	4	3	23
舟島小	君原小と統合	竹来中	24	54	50	48	63	74	313
			1	2	2	2	2	2	11
阿見第一小	変更なし		76	66	79	72	60	84	437
			3	2	2	2	2	3	14
計			377	405	447	436	390	435	2,490
			14	14	14	14	13	15	84

※新設校の児童数は，一学年４学級（３学級）の場合

③ 1校あたりの児童数が増えることによる再編効果

本計画に基づき取り組む学校再編の効果を，次のように考えます。

- 子ども同士や子どもと教員間など，人と人との多様な関わりを通じて，互いに理解し，良い刺激となりながら社会性を習得することができる。
- 音楽や体育，クラブ活動，学校行事など一定の規模の集団を前提とする教育活動をより効果的に行うことができる。
- 一斉指導や個別指導，グループ指導といった学級の枠を超えてさまざまな学習形態を取り入れることができる。
- 教員数を確保することで，多様な教育活動の展開が可能となる。
- 教員同士で学習指導や生徒指導などについての相談や協力ができる。
- 大規模改修や建て替えなど，学校施設の整備を効率的に進めることができる。
- PTA 活動や学校行事における保護者の負担が軽減される。

④ 検討委員会と統合準備委員会の設置について

学校再編による統合校は，子どもたちにとってより良い教育環境を目指した今後の方向性を検討するために，保護者，地域の代表，教職員等で構成する「検討委員会」（仮称）を設置し協議を行います。

検討委員会で統合の合意形成が得られた場合は，統合校の保護者，地域の代表，教職員等で構成する「統合準備委員会」（仮称）を合同で設置し，学校運営及び学校行事，通学対策，PTA 等の組織運営，統合に向けた交流事業や記念事業などについて協議を行います。

⑤ 本郷地区新小学校の通学区域

通学区域については，通学距離・時間や地理的な条件，通学時の交通安全確保や境界が分かりやすいある程度幹線となる道路を考慮するとともに，本郷小地区の 9 行政区の意向も聴取した結果，都市計画道路「荒川沖・寺子線」で区分することを基本とし，地域との合意形成を図るように進めていきます。

(2) 通学について

① 通学路の安全確保

学校再編による通学区域の変更に伴う危険箇所の再点検を行うなど，引き続き通学時の安全対策に努めます。

- 通学路の安全点検を実施する。
- 学校安全ボランティア（スクールガード）や地域の防犯ボランティアの協力を得ながら，児童の安全対応を図る。
- 通学路の安全対策について，適宜対処するとともに，必要に応じ関係機関に要望する。

② 遠距離通学に対する通学支援

学校再編に伴い遠距離通学となる児童を対象に，子どもたちの体力・安全面を考慮してスクールバスや路線バス等を活用した通学支援を行います。

スクールバスの運行については，運行方法や本数，ルートなどについて，保護者や学校と協議の上，他市町村の事例を参考にして具体的な検討・決定を行います。

(3) 学校生活について

① 再編後の学校生活における不安への対応

児童及び保護者の不安を解消するため，統合校が合同で設置する統合準備委員会において，地域性等も考慮しながら次の事項の具体的な検討を行います。

- 統合時に統合対象校の児童を複数同一学級に配置することについて
- 不安や悩みを相談できる専任教員の配置について
- 相談しやすい環境の整備について
- 学校生活や授業，友達関係等に関するアンケート調査の定期的な実施について
- 統合対象校には統合前の両校の教員を配置することについて
- 災害等緊急時の対応について

② 統合に向けた事前交流

児童及び保護者の事前交流の機会を充実させるために，統合校が合同で設置する

統合準備委員会において，当該小学校が実施してきた行事等も考慮しながら次の事項の具体的な検討を行います。

- 事前交流の実施時期は統合実施年度の前年度とし，具体的なスケジュールは前々年度中に決定する。
- 事前交流の内容は，授業や校外学習を中心とした交流活動，遠足，夏休みレクリエーション，保護者同士の交流等とする。

③ 統合校による施設整備

学校再編により児童数が増加する統合校では，教室へのエアコンの設置，トイレの改修（洋式化），グラウンドや遊具・備品等の整備，給排水設備の更新などを計画的に実施します，

また，スクールバスの運行に伴い，乗降スペース整備の検討も行います。

④ 放課後児童クラブの実施方針

子どもたちの健全育成や放課後の居場所づくりを推進する観点から，すべての小学校において学校敷地内での放課後児童クラブの実施を基本とします。

また，必要な指導員数の確保とともに，研修等の充実による指導内容の質の向上を図ります。

9. 資料

（1） 阿見町立学校再編検討委員会

阿見町立学校再編検討委員会規則

(趣旨)

第 1 条　この規則は，阿見町における少子化や住宅開発等に対応した学校再編について検討するために設置する阿見町立学校再編検討委員会(以下「検討委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第 2 条　検討委員会は，阿見町教育委員会(以下「教育委員会」という)の諮問に応じ，次に掲げる事項について検討し答申する。

(1)　阿見町立の小学校及び中学校の再編に関すること。

(2)　前号に係る具体的な方策に関すること。

(組織)

第 3 条　検討委員会の委員は，20 人以内で組織する。

2　委員は，次に掲げるもののうちから教育委員会が委嘱又は任命する。

(1)　地域を代表する者

(2)　保護者を代表する者

(3)　学校関係者

(4)　町議会の議員を代表する者

(5)　学識経験者

(6)　前各号に掲げるもののほか教育委員会が必要と認めるもの

(任期)

第 4 条　委員会の委員の任期は，委嘱又は任命の日から第 2 条に規定する所掌事項に関する答申を行う日までとする。

2　委員が欠けた場合は，補欠の委員を委嘱又は任命することができる。

(委員長及び副委員長)

第 5 条　検討委員会に，委員長及び副委員長を置く。

2　委員長及び副委員長は，委員の互選により定める。

3　委員長は，検討委員会を総理し，検討委員会を代表する。

4　副委員長は，委員長を補佐し，委員長に事故あるとき，又は委員長が欠けたときは，その職務を代理する。

(会議)

第 6 条　検討委員会の会議(以下「会議」という。)は，必要に応じて委員長が招集し，委員長は当該会議の議長となる。

2　会議は，委員の総数の 2 分の 1 以上の出席がなければ開くことができない。

3　会議の議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところとする。

4　委員長は，必要があると認めるときは，会議に委員以外の者の出席を求め，その説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第７条　検討委員会の庶務は，教育委員会学校教育課において処理する。

(補則)

第８条　この規則に定めるもののほか，検討委員会の運営に関し必要な事項は，委員長が検討委員会の意見を聞いて定める。

附　則

この規則は，平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

阿見町立学校再編検討委員会委員名簿

選出区分		氏　名	備　考
1	地域の代表	糸　賀　　忠	中央北区長
2	地域の代表	大久保　久　夫	上長区長
3	地域の代表	坂　本　靖　夫	新山区長
4	地域の代表	○田　村　敏　博	住吉区長
5	地域の代表	小松澤　唯　一	(前)追原区長
6	地域の代表	長　尾　和　博	(前)南平台二丁目区長
7	地域の代表	◎北　澤　孝　雄	立ノ越区長
8	地域の代表	藤　山　英　夫	阿見台区長
9	保護者の代表	堺　　仁　美	阿見小学校 PTA 会長
10	保護者の代表	後　藤　祐　一	実穀小学校 PTA 会長
11	保護者の代表	篠　﨑　明　夫	(前)吉原小学校 PTA 会長
12	保護者の代表	岡　田　治　美	本郷小学校 PTA 会長
13	保護者の代表	大　越　きよみ	(前)君原小学校 PTA 会長
14	保護者の代表	高　野　好　央	(前)舟島小学校 PTA 会長
15	保護者の代表	正　木　敏　明	(前)阿見第一小学校 PTA 会長
16	保護者の代表	藤　平　竜　也	(前)阿見第二小学校 PTA 会長
17	小中学校長の代表	菅　谷　道　生	阿見小学校校長
18	小中学校長の代表	立　原　秀　一	阿見中学校校長
19	町議会議員の代表	諏訪原　　実	(前)町議会民生教育常任委員
20	学識経験者	中　島　雅　己	茨城大学農学部准教授

◎委員長，○副委員長

（2） 策定経過

平成 25 年

6 月	22 日	平成 25 年度第１回阿見町立学校再編検討委員会 ・阿見町教育委員会からの諮問 ・阿見町立学校再編検討委員会の概要について ・委員長及び副委員長の選出 ・阿見町及び町立学校の現況について ・保護者を対象としたアンケート調査について
7 月		保護者を対象としたアンケート調査の実施
9 月	26 日	平成 25 年度第２回阿見町立学校再編検討委員会 ・保護者を対象としたアンケート調査結果について ・意見交換会の開催について
10 月		意見交換会の開催 ・町立学校再編に関する意見交換
12 月	1 日	平成 25 年度第３回阿見町立学校再編検討委員会 ・前回までの意見等について ・町立学校再編パターンの考え方について ・今後のスケジュール案について

平成 26 年

1 月	26 日	平成 25 年度第４回阿見町立学校再編検討委員会 ・町内小学校の状況報告について ・経過報告及び前回委員会での意見について ・町立学校再編の考え方について
1 月	29 日	学校再編の考え方及び検討状況を君原地区区長会に説明
2 月	6 日	竜ヶ崎市立長戸小学校の複式学級を視察
2 月		児童・生徒を対象としたアンケート調査の実施
2 月	16 日	平成 25 年度第５回阿見町立学校再編検討委員会 ・経過報告及び前回委員会での意見について ・町立学校再編の考え方について
3 月	23 日	平成 25 年度第６回阿見町立学校再編検討委員会 ・阿見町立学校再編に関する基本指針案の検討
3 月	28 日	阿見町教育委員会へ阿見町立学校再編に関する基本方針を報告（中間報告）
3 月	31 日	阿見町教育委員会で阿見町立学校再編に関する基本方針を決定

６月	25 日	平成 26 年度第１回阿見町立学校再編検討委員会 ・基本方針に基づく再編計画案の検討
７月	４日～ 18 日	説明会の開催 ・阿見町立学校再編に関する基本方針の説明，意見交換
８月	29 日	平成 26 年度第２回阿見町立学校再編検討委員会 ・基本方針に基づく再編計画案の検討
10 月	18 日	平成 26 年度第３回阿見町立学校再編検討委員会 ・基本方針に基づく再編計画案の検討
11 月	９日	平成 26 年度第４回阿見町立学校再編検討委員会 ・阿見町立学校再編計画案の検討
11 月	11 日～ 21 日	説明会の開催 ・阿見町立学校再編計画案の説明，意見交換
平成 27 年		
２月	１日	平成 26 年度第５回阿見町立学校再編検討委員会 ・阿見町立学校再編計画案の検討
２月	４日～ 18 日	パブリックコメントの実施
３月		【予定】阿見町教育委員会へ阿見町立学再編計画を答申 ・パブリックコメントの結果報告 ・阿見町立学校再編計画案の検討